

病院の理念と基本方針

理念

人間の尊厳と先進医療の調和を目指し、臨床医学の発展と次世代を担う医療人の育成に努める。

基本方針

- ☐ 患者さんの意思を尊重した安心・安全な医療を提供します。
- ☐ 先進医療の開発と実践を目指します。
- ☐ 社会・地域医療へ貢献します。
- ☐ 人間性豊かな優れた医療人を育成します。

患者さんの権利と責務

〈権利〉

- ☐ 人としての尊厳と権利が尊重され、個人情報が保護されます。
- ☐ 良質かつ適切な医療を公平に受けることができます。
- ☐ ご自身の医療内容について、十分な情報提供と説明を受けられます。
- ☐ セカンドオピニオンを希望される場合には、本院の情報を提供します。
- ☐ 本院にて行われている臨床研究に関しては、研究に参加するか否かを自ら決定し、いつでも参加を中止することができます。

〈責務〉

- ☐ 医療は医療者との協同行為ですので、ご自身も療養に努めてください。
- ☐ 適切な医療を受けるため、ご自身の情報を正確に医療者にお伝えください。
- ☐ 本院が定める規則を遵守するほか、他の患者さんへの医療提供の支障とならないよう、配慮してください。
- ☐ 良き医療者を育成するため、積極的に医療に参加し協力してください。

・医師の説明を求めることができる方は、患者さんご本人または予め病院に届け出られた代諾者のみです。
・反社会的行為、特に暴力・脅迫・強要・性的嫌がらせなどがあった場合、職員の指示や警告に従わない時は、病院の規定に沿って対応いたします。

こどもの権利

病院で治療をうけるこどもは、「こどもの権利」をもとに守られます。

- ☐ ひとりの人間として、思いやりのある医療を受けることができます。
 - ☐ 最も良い、安全な医療を受けることができます。
 - ☐ 病気のことや病気を治していく方法を、一人一人にあわせた言葉や絵などを使って、病院スタッフから説明を受けることができます。
 - ☐ わからないことや心配なことがあるときは、いつでも病院スタッフに話をすることができます。
 - ☐ 他の人に知られたくないことは秘密にできます。
 - ☐ 自分の体のことは、自分で決めることができます。
 - ☐ 入院しても、勉強したり遊んだりすることができます。
- ※病院スタッフ：医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリ訓練士・保育士など

千葉大学病院のご案内

2024 - 2025



これからの150年も
より高きものをめざして



Chiba University Hospital



創立150周年を迎え、 これからも「質の高い医療」を

2024年4月1日、新たに病院長に就任いたしました。これまで、整形外科長として診療や研究を行う一方、副病院長として4年間、病院運営に携わってまいりました。今後は病院長として、患者さんのために良質かつ適切な医療が提供できる病院づくりに努めてまいります。

さて、2024年4月1日から「医師の働き方改革」に関する法律が施行され、医師の時間外労働の上限規制が始まりました。病状説明は勤務時間内に行うなど、患者さんやご家族にもご協力いただきながら、診療体制の適正化に取り組んでまいります。

そして、医師に限らず、すべての職員が健康で仕事に充実感を感じられる職場づくりにも注力します。それこそが、皆さまの診療に大きく役立つと信じています。

また、質の高い医療を提供し続けるため、高度急性期・先進医療・小児疾患・周産期医療・高齢者医療・ゲノム医療・予防医療にも対応できる病院として、関連病院との役割分担を明確化し、連携を深めながら、地域の皆さまの健康促進に寄与してまいります。

おかげさまで、千葉大学病院は2024年7月に創立150周年を迎えます。これまでのご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。伝統、すなわち「質の高い医療の提供」を継承し、さらに発展させ、後の世代にバトンを渡していくことが私たちの使命です。今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

病院長 大鳥 精司



2024年度執行部一同（病院長、副病院長15名、病院長補佐3名）



2024.4

妊娠を希望するカップルにワンストップの診療を提供 リプロダクション支援センター

2024年4月1日、妊娠を希望するカップルに高度な生殖医療の提供を目指したリプロダクション支援センターを設置しました。

婦人科・産科医、泌尿器科医、看護師、胚培養士などが所属し、不妊治療方針の相談、薬物療法や人工授精などの一般不妊治療の実施、体外受精や顕微授精などの生殖補助医療の実施、がんサバイバーに対する妊孕性温存療法の実施などを行っています。

センターが設置されることにより、婦人科・産科での診療中に男性パートナーの精査が必要になった場合、カップルとして診療を進めることが容易となり、シームレスな治療を提供することができます。また、男性・女性の双方に不妊の原因がある場合、センターとして診療情報を共有することにより、より適切な治療を提供できるようになります。



(左から)泌尿器科長 市川智彦教授と産科・婦人科の科長で同センター長 甲賀かをり教授

さまざまな疾患を抱えながら妊娠を希望するカップルのために、複数の診療科と連携し、大学病院ならではの専門性の高い治療を提供できます。



リプロダクション支援センター
ホームページ



看護師に包帯の巻き方を教わる高校生たち

2023.7

看護師を目指す高校生が 実際の現場で看護体験

看護師を目指す県内の高校3年生を対象に「ふれあい看護体験」を実施しました。病棟で、実際に看護師が働く姿を見学、その後に看護師指導の下、脈拍測定や聴診の仕方などを体験しました。

2023.11

医師セミナーで 地域医療に貢献！ 院内外の医師がESDを体験

地域医療に貢献できるドクターの育成を目的に、内視鏡センター主催でESDハンズオンセミナーを開催しました。ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)とは、2mm程度のナイフで早期がんを薄く剥いていく技術です。セミナーには院内外の医師20名が参加し、特別講演やシミュレーターを使用した講習を受講しました。



ブタの臓器を使ってシミュレーション講習を行いました

2023.12

子どもたちに贈るハーモニー 小児科病棟のスタッフが クリスマスコンサートを開催

小児科病棟の医師や看護師などによるクリスマスコンサートを開催しました。ピアノやヴァイオリン、ギターなどそれぞれが得意な楽器を手にとり、クリスマスにちなんだ曲のアンサンブルや合奏を披露、病棟に響き渡る音楽に、子どもたちや保護者の方々はとても楽しそうに耳を傾けられ、最後は大きな拍手で締めくくられました。

また、別日には大学マスコットのイノが小児科病棟を訪問。病気と闘う子どもたち一人ひとりにクリスマスカードとキーホルダーをプレゼントしました。



子どもたちはイノの訪問に大喜び！
短時間であつという間に
仲良くなりました。



院内ツアーで眼科外来を案内する馬場隆之眼科長

2023.9

インドネシア政府系7病院の 医師ら23名が視察しました

インドネシア政府系の7病院から医師ら23名が当院を視察しました。このうち、ワヒディン・ステロフソド病院は、2022年12月に教育や研究などの分野で当院と協定を締結して以降、初めての公式訪問となります。

当院の横手幸太郎病院長(当時)や鈴木拓児国際医療センター長(当時)、濱田洋通小児科長、中野泰至助教らと、将来の医療協力の構想について活発な意見交換を行ったあと、外来や病棟、検査エリアを見学しました。

2023.7

認知行動療法アプリによる 不眠症の症状改善を目指した 治験を開始

不眠症は、慢性化した不眠が3か月以上続いた状態のことで、日本人の5人に1人が不眠症と言われています。薬による治療法もありますが、服用の長期化や他の薬との併用によるリスクが課題です。眠りに対するネガティブな考え方や行動を変え、一人ひとりにあった睡眠習慣を見つけていく「認知行動療法」の有効性を確認する治験を2023年7月から開始しました。認知行動療法は、効果を感じるまでに時間を要しますが、考え方や習慣自体を変えるため、効果が長続きすることや、非薬物療法のため、体への負担も少ないのが利点です。



治験の詳細はこちら

不眠状態が長引くと、仕事や家事に支障が出ることもあります。高齢になるほど不眠症の割合も高くなるといわれており、治験の成果を一人でも多くの患者さんに役立てたいと思っています。

認知行動療法センター長
清水栄司 教授



ご寄附のお願い

2024年に千葉大学医学部と病院は、創立150年を迎えます。
これからの未来に繋がる医療を生み出し続けるために、皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。

治療・研究



重症患者さんや難治疾患の患者さんなどが受診される大学病院ですので、少しでも明るく快適な診療空間でお過ごしいただきたいと考えています。患者さんのための施設整備にお力添えください。

先進医療の提供



大学病院ならではの高難度医療を提供するため、最新の機器・設備を整えます。高額な医療機器が多いため、メンテナンスの費用や取り換える費用の確保が課題となっています。

医療者の技術習得



医師、看護師、薬剤師などが技術を習得するために行っている研修では、高額なシミュレーターを使用しています。その購入や維持管理、研修環境の整備などに役立っています。

いただいたご寄附の金額

28,476,174円 (2023年4月～2024年3月)

税制法の優遇措置

個人の場合、寄附金額の2,000円を超える部分について、当該年所得の40%を限度に所得控除の対象となります。寄附金を受領後、確定申告に必要な「領収書」をお渡しいたしますので控除証明書としてご利用ください。法人の場合、寄附金額の全額損金算入が可能です（一般の寄附金に係る損金算入限度額とは別枠）。

ご寄附の方法

金融機関からの振り込みまたはクレジットカード決済でお受けします。

ご寄附のお申込み・お問い合わせ

千葉大学病院 研究推進課研究企画係
TEL: 043-226-2603
E-Mail: byoin-kkikaku@chiba-u.jp
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/hosp/about/kifu.html>



医師の働き方改革に取り組んでいます

「医師の働き方改革」に関する法律（2024年4月施行）により、医師の業務時間の上限規制が始まりました。質の高い医療を提供し続けるため、ご来院の皆さまにもご協力いただきながら、診療体制の適正化に取り組んでいます。



病状や手術・治療のご説明や相談対応は、原則として平日9時～16時45分に行います。



救急診療は、症状が重く、緊急性が高い場合のみ行います。可能な限り診療時間内にお願いします。



土日・祝日・夜間は、主治医ではなく、当直・当番医が担当します。主治医とも連携しますのでご安心ください。



予約日時の変更は、やむを得ない場合に限りです。なるべくお控えください。

高度急性期を脱したら、地域の医療機関などにお移りいただきます

当院は、高度な医療の提供を担う「特定機能病院」です。当院で治療を行ったら、地域の医療機関などにお移りいただきます（「逆紹介」と言います）。再び高度な医療が必要になったときは、当院で治療も可能ですので、ご安心ください。

1 千葉大学病院の受診には紹介状が必要です



2 当院では高度急性期の高度医療を提供します



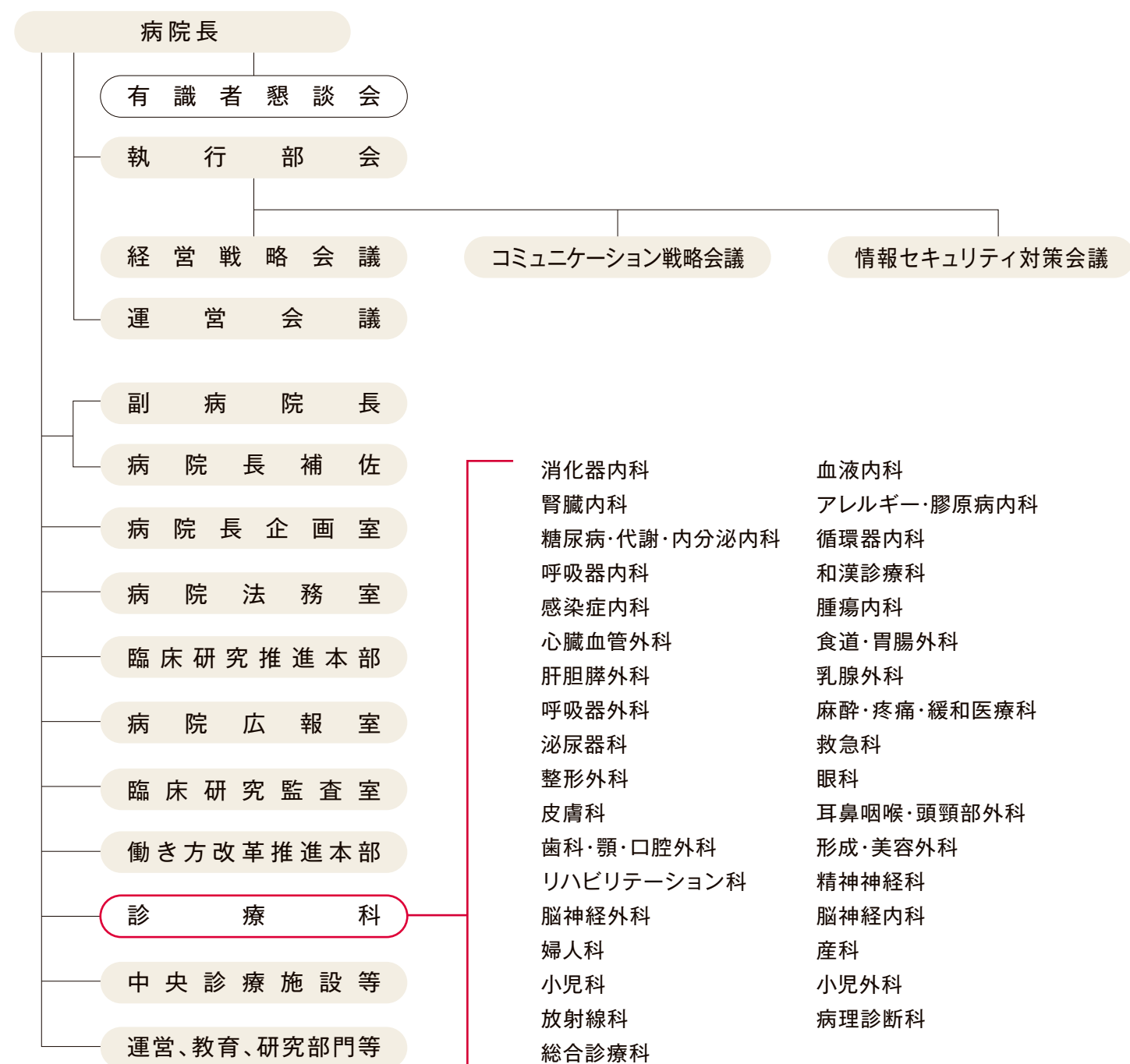
3 経過観察を終えたら逆紹介を行います



4 当院が逆紹介した医療機関にお移りいただきます



Organization Chart 機構図



千葉大学マスコット
キャラクター
イノ



千葉大学病院
公式キャラクター
びなこちゃん

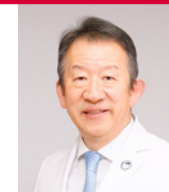


千葉大学病院
公式キャラクター
びなたくん

診療科のご案内

消化器内科

加藤 直也 科長



消化器疾患全般で負担が少なく質の高い
最良の医療の提供を心がけています

対象疾患

- ・ウイルス性、非ウイルス性肝疾患
- ・胆石や膵石などの結石症
- ・門脈圧亢進症
- ・潰瘍性大腸炎
- ・肝・胆・膵・消化管の悪性腫瘍
- ・クローン病
- ・食道・胃十二指腸・大腸の早期がん
- ・便秘などの消化管機能異常 など

診療・研究内容

当科では、肝疾患、胆道系疾患、膵疾患、消化管疾患の診療を担当します。各学会が定めている診療ガイドラインを遵守したうえで、患者さんのニーズや価値観を考慮し、常に患者さんの目線に立った医療を心がけています。

- ・肝臓グループ：肝炎や急性肝不全に対する治療、門脈圧亢進症に伴う食道胃静脈瘤や難治性腹水の治療、肝臓がんに対する穿刺治療、経血管治療、全身化学療法を行うとともに、基礎的研究・臨床的研究を進めています。
- ・胆膵グループ：胆膵がんの内視鏡的治療と化学療法、難治性胆膵良性疾患の内科的治療、胆管結石・膵石の内視鏡的治療、Interventional EUSなどの診療および基礎的研究・臨床的研究を行っています。
- ・消化管グループ：消化管腫瘍に対する内視鏡治療、難治性炎症性腸疾患に対する診療および基礎的研究・臨床的研究を行っています。

腎臓内科

浅沼 克彦 科長



高度な医療を提供するだけでなく、
安全で質の高い医療を実践します

対象疾患

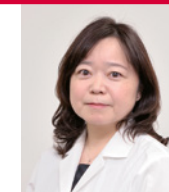
- ・慢性腎臓病（CKD）
- ・急性腎障害（AKI）
- ・慢性糸球体腎炎
- ・ネフローゼ症候群
- ・糖尿病性腎臓病（DKD）
- ・多発性嚢胞腎等の遺伝性腎疾患
- ・膠原病・血管炎等に伴う腎障害
- ・腎代替療法（血液透析等） など

診療・研究内容

慢性腎臓病は、蛋白尿や血尿が出たり、腎臓の働きが低下したりする状態を表します。進行すると、腎不全により血液透析などの透析療法が必要となりますが、生活習慣の改善や治療を早期に行うことで、透析療法の回避や、透析療法までの期間を延ばすことができます。私たちは、腎臓の組織を詳しく調べる検査を行い、早期にその原因を見つけ、患者さんに対処法やより良い治療法を提供しています。また、急性腎障害は、急激に腎臓の働きが落ちる病態のため、他診療科と緊密に連携し、速やかに原因検索を行い、原因除去や治療を行っています。現在、iPS細胞から腎臓を再生するという試みがされている一方、慢性腎臓病から腎不全へと進行し、透析が導入される患者さんは増え続けているため、慢性腎臓病に対する新規治療薬の開発が望まれています。私たちは、なぜ慢性腎臓病が進行するのか、基礎研究を通して解明し、慢性腎臓病の進行を予知する新しいバイオマーカーの開発と新規治療薬の創出を目指した研究を行っています。また、透析患者さんを含めた、慢性腎臓病患者さんの健康寿命の延長のために臨床研究を行っています。

血液内科

堺田 恵美子 科長



患者さんとご家族が安心して受けられる
高度な医療を提供します

対象疾患

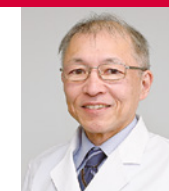
- ・造血器悪性腫瘍：急性・慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性腫瘍、POEMS症候群、ALアミロイドーシス
- ・貧血・血小板疾患・凝固異常：再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、血友病 など

診療・研究内容

当科では急性および慢性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などの血液の病気の診断と治療を行っており、日本骨髄バンク、日本さい帯血バンクとも連携し、非血縁者間移植、HLA半合致移植など様々な造血幹細胞移植を行っています。2018年には造血細胞移植センターがオープンし、造血細胞移植センター移植後長期フォローアップ（Long-term Follow Up, LTFU）外来では、体調面の問題のみならず社会復帰やリハビリ、こころのケアなど、移植を専門とする医師・看護師・薬剤師が相談に応じ、移植後の患者さんのサバイバーシップを支えています。造血幹細胞移植以外にも、白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・骨髄増殖性疾患などに対する国内外の臨床試験（治験）を行っています。さらに2021年より革新的免疫細胞治療薬であるCAR-T療法も当院で施行可能となりました。臨床・基礎研究においては、多発性骨髄腫の微小残存病変と予後に関する研究、POEMS症候群・ALアミロイドーシスの病態解明や新規治療につながる研究を行っています。

アレルギー・膠原病内科

中島 裕史 科長



科学的視点に立ちつつも心が通う、
総合的な内科診療を行います

対象疾患

- ・アレルギー疾患：食物アレルギー、気管支喘息、アナフィラキシー
- ・膠原病・膠原病類縁疾患：強皮症、関節リウマチ、血管炎症候群、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎／皮膚筋炎
- ・好酸球増多疾患や原因不明熱等の鑑別診断 など

診療・研究内容

・喘息・アレルギー診療：喘息の治療はピークフロー測定による管理と診療ガイドラインに沿った吸入ステロイドを中心に行い、難治性喘息では分子標的薬治療を行います。食物アレルギー、アナフィラキシー、好酸球増多性疾患を多く診ています。

・膠原病・リウマチ診療：膠原病に伴う間質性肺炎、中枢神経病変等の早期診断とその治療を行います。関節リウマチには、抗リウマチ薬に加え、分子標的薬を用いた治療も積極的に導入し、寛解を目指した治療を行います。関節エコーを用いた関節評価に多くの実績があります。治験・自主臨床試験にも積極的に参加し、難治病態の新規治療法の開発を行っています。

・臨床研究：気管支喘息の難治化機構の解明、ANCA関連血管炎や抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎治療の最適化に関する研究、全身性エリテマトーデスのコホート研究等の臨床研究を行っています。

・基礎研究：難治化喘息の病態の解明、自己免疫疾患・遺伝性免疫異常症の病態の解明、T細胞の分化機構の解明等の先進的な基礎研究を行っています。

糖尿病・代謝・内分泌内科

小野 啓 科長

健康長寿の実現を目指し、全身を診る内分泌・代謝診療を実践します



対象疾患

- ・1型・2型糖尿病、妊娠糖尿病
- ・脂質異常症、動脈硬化
- ・肥満症
- ・下垂体疾患・甲状腺疾患
- ・副甲状腺疾患・骨粗鬆症
- ・副腎疾患・性腺疾患
- ・原発性アルドステロン症
- ・早老症 など

診療・研究内容

- ・糖尿病：管理栄養士による食事・運動指導に加え、患者さんの特徴に応じた内服治療、GLP-1作動薬・インスリン治療を行い、網膜症や腎症、動脈硬化の予防に努めます。持続血糖モニタリングやこれと連動するインスリンポンプを用いた1型糖尿病治療、動脈硬化検査、フットケアなど、高度な技術と設備で対応します。
- ・脂質異常症：家族性高コレステロール血症や著しい高中性脂肪血症、低HDLコレステロール血症など、診断や治療が難しい病気に対応します。
- ・肥満症：食事・運動療法のほか、行動療法や新しい薬剤を含む薬物療法、胃縮小術も選択肢として、外科・臨床心理士を交えた多職種によるチーム医療で臨みます。
- ・内分泌疾患：先端巨大症などの下垂体疾患、パセドウ病、副甲状腺疾患、原発性アルドステロン症やクッシング症候群などの副腎疾患、そして性腺疾患やインスリノーマなど、高度な検査と治療を行います。
- ・早老症：ウエルナー症候群のほか、フレイル・サルコペニアに配慮した老年病診療を実践します。

循環器内科

小林 欣夫 科長

循環器疾患全般にわたり科学的な根拠に基づいた医療を提供します



対象疾患

- ・重症心不全
- ・先天性心疾患
- ・急性心筋梗塞・狭心症
- ・末梢血管疾患
- ・大動脈瘤・大動脈解離
- ・心臓弁膜症
- ・不整脈
- ・高血圧症 など

診療・研究内容

- ・冠動脈疾患治療部：虚血性心疾患分野を担当し、急性冠症候群の患者さんを24時間体制で受け入れます。可能な限り低侵襲での心カテーテル治療（経皮的冠動脈形成術（PCI））を行っています。
- ・不整脈：患者さんを第一に考え、「優しい」そして優れた不整脈治療を目指しています。
- ・心不全：重症心不全の薬物療法、非薬物治療（植込み型除細動器・心臓再同期療法・補助循環装置・人工心臓・心移植）を行います。重症者には、心不全専門外来と訪問診療・訪問看護施設による院外診療連携を介し、包括的な心不全診療を行っています。
- ・弁膜症疾患：大動脈弁狭窄症に対する経力カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）を行っています。また僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁クリップ術（MitraClip）を実施しています。
- ・高血圧：難治性高血圧に対する精査・薬物治療・栄養指導などを行っています。
- ・心臓画像診断：各種画像検査を通じ、形態学・生理学・代謝など多方面からの心疾患の診断・病態解析を行っています。

感染症内科

猪狩 英俊 科長

重症感染症、免疫不全感染症や渡航医学など幅広い感染症を診療します



対象疾患

- ・一般感染症：細菌・ウイルス・結核・真菌（専門外来あり）・寄生虫
- ・HIV感染症：カウンセリングも含めた診療体制・セクシャルヘルス外来
- ・移植感染症：臓器移植前のコンサルテーション、移植後のマネジメント
- ・輸入感染症：旅行後の感染症、新型インフルエンザ対応など
- ・渡航前相談：渡航前の予防接種・予防内服の相談 など

診療・研究内容

- ・外来診療では、HIV/AIDS、輸入感染症、結核などを診療しています。当院は第二種感染症指定医療機関です。
- ・真菌症専門外来は、千葉大学真菌医学研究センターと連携して専門的な診断と治療を行っています。また治療や診断に関する基礎研究も行っています。
- ・診療体制は感染症全般に関するコンサルテーションとなっています。当科で入院のご相談は行っておりません。
- ・当院はエイズ中核拠点病院になっており、医師・看護師のほか、HIV感染症薬物療法認定薬剤師、カウンセラー、ソーシャル・ワーカーなどHIV診療に精通したスタッフが連携して治療にあたっています。HIV感染者の高齢化や生活習慣病が問題となっています。これらの問題を解決するための臨床研究を行っています。
- ・免疫不全や免疫抑制剤を使用して抵抗力が低下した患者さんに発症する感染症に対応した診療を行っています。臓器移植前のワクチン接種を含む感染症対策や移植後の感染症診療も行っています。
- ・2020年4月、セクシャルヘルス外来を開設し、HIVと性感染症のスクリーニング、HIVに対する曝露後予防などを行っています。
- ・新型コロナウイルス感染症患者を初期から積極的に受け入れてきました。

腫瘍内科

大野 泉 科長代理

様々な悪性腫瘍の集学的治療とエビデンスを重視した質の高い診療を行います



対象疾患

- ・がん症例全般 特に、原発不明がん、軟部肉腫、性腺外胚細胞腫瘍は、当科の専門性を活かした診療を提供
- ・肺がん・胸腺腫等の呼吸器系腫瘍 多くの治験・臨床試験・がんゲノム医療にも取り組み先端分野の治療を提供 など

診療・研究内容

さまざまな悪性腫瘍の化学療法（抗がん薬による治療）・分子標的治療・免疫チェックポイント阻害治療などの薬物療法、および薬物療法と手術療法、放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行っています。主な対象疾患は、各種固形がんの薬物療法・原発不明がんです。初回治療、再発治療を問わず、各種固形がんの薬物療法をそれぞれの疾患の標準治療に沿って行います。一般の病院、診療科では対応が困難なことの多い原発不明がん、性腺外胚細胞腫瘍、各臓器肉腫についても専門的治療を行います。またがんゲノムパネル検査も積極的に行っています。専門性の高い診療科ですので、情報が極めて重要です。必ず紹介状をご持参ください。入院・外来診療では臓器を限定しないがんを対象としています。特に従来の臓器別診療体制のはざまに位置するような上記の疾患でお困りの場合にはご相談ください。外来化学療法にあたっては医師・看護師、薬剤師の緊密な協力が重要であることからチーム医療のモデル部署であると自負しています。病院全体のがん診療発展のため尽力しています。

呼吸器内科

鈴木 拓児 科長

常に先進かつ最良と考えられる呼吸器領域の医療を提供します



対象疾患

- ・間質性肺炎・びまん性肺疾患
- ・肺高血圧症
- ・呼吸器悪性腫瘍
- ・気管支喘息等のアレルギー疾患
- ・肺炎等の肺感染症
- ・慢性閉塞性肺疾患
- ・慢性呼吸不全
- ・肺移植適応疾患 など

診療・研究内容

- ・間質性肺炎・びまん性肺疾患：特発性間質性肺炎、肺胞蛋白症、リンパ脈管筋腫症等の難治性びまん性肺疾患の診断・治療を行います。
- ・肺がん：治療方針決定のための遺伝子検査などを実施し、呼吸器外科・放射線科・腫瘍内科とも連携しながら、最善と考えられる治療を提供します。臨床試験も多数実施しています。
- ・肺高血圧症：各種肺高血圧症の精査・治療を行います。重症肺高血圧症にも対応可能です。慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対しては、肺動脈バルーン拡張術も実施しています。
- ・肺動静脈瘻、オスラー病、咯血：経力カテーテル的コイル塞栓（肺動静脈瘻）・気管支動脈塞栓術（咯血）等の治療を行います。
- ・慢性閉塞性肺疾患／気管支喘息：気管支喘息に対しては気管支温熱療法も実施しています。
- ・肺移植適応疾患：多職種で構成される肺移植チームで肺移植登録のための適応評価を行っています。
- ・禁煙外来：禁煙を決意した方に支援薬の処方などで支援します。

和漢診療科

平崎 能郎 科長

「漢方」と「西洋医学」の両方の長所を取り入れた医療を心がけています



対象疾患

以下の疾患を漢方薬を併用することで治療します。

- ・自己免疫疾患（関節リウマチ、皮膚筋炎、線維筋痛症など）
- ・腎機能障害
- ・アレルギー疾患（鼻炎、角結膜炎、アトピー性皮膚炎など）
- ・がんの補助療法（副作用軽減、再発予防）
- ・精神神経疾患（不安症、パニック障害など）
- ・虚弱体質（疲れやすい、風邪をひきやすい）
- ・生活習慣病（糖尿病・高血圧など）
- ・検査で異常を認めない体調不良
- ・難治性の疼痛

診療・研究内容

- ・経験的に行われてきた漢方医学を現代医学に応用しています。
- ・西洋医学的な病名に捉われず、陰陽虚実、気血水、六病位、漢方医学での臓府の異常などの観点から診断します。
- ・漢方製剤（顆粒のエキス剤）だけではなく、個人個人の体質に合わせて生薬を調合した煎薬による治療を保険診療で行っています。
- ・医療の原点に立ち返り、病状に対して傾聴し、身体のみならず心理状態も考慮した心身一如の治療を行います。
- ・漢方薬の影響を現代医学的に評価します。定期的に検査をして効果判定や副作用防止に努めます。
- ・重症や難治性疾患の場合には入院加療も行っております。
- ・和漢薬成分には、エビゲノム修飾作用、免疫調整作用など証明されているものが多数あります。これらのエビデンスを伝統医学的診断に取り入れた治療を行います。
- ・和漢薬由来の天然化合物による抗がん作用の研究や、診断法の客観化の研究を行っています。

心臓血管外科

松宮 護郎 科長

患者さんの早期回復と長期の生活の質（QOL）の向上を目指した医療を実践します



対象疾患

- ・冠動脈疾患
- ・重症心不全
- ・弁膜症
- ・肺血栓塞栓症
- ・大動脈瘤
- ・心房細動
- ・閉塞性動脈硬化症
- ・大動脈解離 など

診療・研究内容

- ・冠動脈疾患：人工心肺を使用しない手術・動脈グラフトの使用・有意な狭窄のある血管全てにバイパス（完全血行再建）を基本とした冠動脈バイパス術を実施。必要に応じて左室形成術・僧帽弁形成術・不整脈手術も併せて行い術後の高い生活の質を目指します。
- ・弁膜症疾患：心臓の弁の狭窄や閉鎖不全に対して、可能な限り自己弁を温存する弁形成術を実施。心房細動がある場合は不整脈手術も併せて実施。経力カテーテル治療として大動脈弁狭窄症に対するTAVI、僧帽弁逆流に対するマイトラクリップを実施します。
- ・大動脈瘤：患者さんに負担が少ないステントグラフト治療を積極的に実施。急性大動脈解離は、的確な診断・適切な外科治療・術後ケアにより救命と病後の生活の質の向上を目指します。
- ・重症心不全：心機能が低下して内科的治療で十分な回復が得られない方には、補助人工心臓装着などを導入。千葉県で唯一の体内植込み型補助人工心臓装着および心臓移植実施認定施設です。
- ・慢性血栓塞栓性肺高血圧症：呼吸器内科と連携して外科治療を実施。血栓内膜摘除術により著明な症状改善が得られています。

食道・胃腸外科

松原 久裕 科長

人にやさしく、かつ質の高い最先端の医療を提供します



対象疾患

- ・食道がん・胃がん・大腸がんなどの悪性疾患
- ・食道アカラシア
- ・クローン病
- ・胃良性腫瘍
- ・肥満手術
- ・潰瘍性大腸炎
- ・腎移植 など

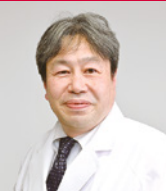
診療・研究内容

- ・食道・胃・小腸・大腸・肛門のがんの診断：内視鏡検査による微細病変の診断。ポジトロン検査によるリンパ節転移診断。超音波内視鏡検査による腫瘍の深達度診断。3次元CT検査による他臓器浸潤の診断。PETによるがんの診断。現在、国内で使用可能なあらゆる診断機器を駆使して、患者さんに負担とならないように、精密な診断を行います。
- ・食道・胃・小腸・大腸のがんの治療：腹腔鏡を用いた身体にやさしい手術、合併症の少ない、早期退院可能な手術をそれぞれの専門チームが専属で治療を担当します。早期がんに対しては、積極的に内視鏡手術を採用して患者さんの負担を軽減しています。また、ロボット支援手術や、重粒子線を用いた治療、免疫療法、温熱療法などの新しい治療法の開発も積極的に行っています。
- ・病的肥満に対する腹腔鏡下スリーブ胃切除術も行い、肥満者に対する治療を内科と協力して行っています。
- ・腎移植も積極的に取り組んでいます。

肝胆膵外科

大塚 将之 科長

高度な専門的知識と手技を基盤とした積極的な治療を行います



対象疾患

・肝臓がん

・胆道がん(胆管がん、胆嚢がん)

・膵臓がん

・十二指腸がん

・転移性肝がん

・肝移植を要する肝硬変、肝不全

・肝内結石、胆嚢結石

・膵嚢胞性腫瘍などの良性疾患 など

診療・研究内容

・肝臓がん:肝細胞がんでは消化器内科と連携して外科治療はもちろん、化学療法やラジオ波焼灼療法などから最適な治療法を選択しています。肝内胆管がんや転移性肝がんでは外科切除と化学療法を組み合わせた集学的治療により高度進行病変に対する治療も積極的にを行っています。

・胆道がん:肝門部領域胆管がんや胆嚢がんでは術前門脈塞栓術により術後肝不全を防ぎつつ積極的に手術を行って根治を目指すとともに、高度進行例に対しても術前化学療法と外科切除を組み合わせることで予後向上を目指しています。

・膵臓がん:血管合併切除などの積極的外科切除に加えて、術前術後の化学療法を併用することで予後改善に努めています。

・肝移植:千葉県唯一の脳死肝移植認定施設であり、肝硬変、原発性硬化性胆管炎、原発性胆汁性胆管炎、肝細胞がん、急性肝不全などに対して生体・脳死肝移植を行っています。

・その他:疾患によっては患者さんへの負担の少ない腹腔鏡を用いた肝切除や膵切除も積極的に取り入れております。

乳腺外科

長嶋 健 科長

最新の技術とエビデンスに基づいたがん治療を実践します



対象疾患

・乳がん

・その他の乳腺疾患 など

診療・研究内容

当科では、個々の患者さんに応じて、局所治療(手術および放射線治療)と全身治療(薬物治療)のバランスを重視した治療を行っています。また、看護師、薬剤師と協力しながらチーム医療を実践しています。

診断:マンモグラフィ・超音波・CT・MRIなどの画像診断や、細胞診・針生検を用いて、正確な病期診断を行っています。病変範囲特定が困難である非腫瘍性病変の局在診断には超音波画像fusion技術や独自に開発した仰臥位MRIマッピング技術を用いて精度の向上に努めています。

手術療法:根治性だけでなく、整容性も重視し、形成外科的手技を応用した乳房温存術や形成外科と連携して行う乳房再建に積極的に取り組んでいます。センチネルリンパ節生検を早期から導入し、近年では遺伝性乳癌に対するリスク低減手術も行っています。

薬物療法:周期期から再発治療まで、化学療法、内分泌療法および分子標的療法の中から最新のエビデンスに基づき、個々の患者さんに最適な治療を実践しています。

泌尿器科

市川 智彦 科長

先進的かつ多岐にわたる治療の選択肢を提示できるよう心がけています



対象疾患

・前立腺がん、腎がん、膀胱がん、精巣がんなどの腫瘍性疾患

・前立腺肥大症、夜尿症、神経因性膀胱など下部尿路機能疾患

・副腎腫瘍などの内分泌疾患

・尿路結石症、男性不妊症、男性性機能障害 など

診療・研究内容

・尿路結石症グループ:体外衝撃波結石破砕術(ESWL)、内視鏡手術、シスチン尿症に関する基礎的研究を行っています。

・前立腺がんグループ:手術療法、放射線療法、ホルモン療法、抗がん剤療法、これらを組み合わせた集学的治療を行っています。ロボット支援前立腺全摘除術を行い、分子マーカーの探索にも取り組んでいます。

・尿路性器腫瘍グループ:がんに対する集学的治療を行っており、腎がん、腎盂・尿管がん、膀胱がんにおけるロボット支援手術、尿路変更術では自排尿型新膀胱造設術も行っています。

・副腎、男性不妊症グループ:副腎腫瘍に対するロボット支援手術、精索静脈瘤に対する顕微鏡下手術、男性性機能障害に対する診断・治療を行っています。非閉塞性無精子症では顕微鏡下精巣内精子採取術を行っています。

・神経因性膀胱グループ:下部尿路機能障害に対する薬物療法、尿流動態検査、前立腺肥大症に対する薬物療法、外科的治療を行っています。

救急科

中田 孝明 科長

院内・院外で発生した重症患者さんに対し高度な救急・集中治療を提供します



対象疾患

・高エネルギー外傷・重症熱傷

・心停止

・急性中毒

・多臓器不全

・敗血症・敗血症性ショック

・重症心不全・呼吸不全

・重症急性膵炎

・昏睡型急性肝不全 など

診療・研究内容

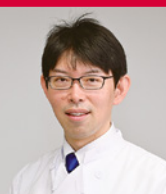
2019年4月1日より救命救急センターの指定を受け、重症救急患者さんに対し高度先進医療を行っています。また、救急隊員・救急救命士への指示や教育など、地域救急医療体制の中で中心的な役割を果たしています。さらに、救急現場に医師派遣が必要な場合は、千葉市消防局と協働して消防ヘリを活用した救急医療や救急車で出動するChiba Outreach Medical Emergency Team (COMET)を展開しています。

集中治療室(ICU)では救急患者さんのほか、複数の人工臓器補助療法が必要な患者さんや、重篤な心不全・呼吸不全に対する心肺補助療法を要する患者さんを県内外の施設から受け入れています。救急外来患者数は年間約6,000人で、救急科専門医は救急搬送される重症患者さんの初期診療と、ICUでの集中治療を行います。かかりつけの患者さんは各診療科の医師が対応しますが、救命処置を要する場合は救急科専門医が協力して初期診療やその後の治療を行います。

呼吸器外科

鈴木 秀海 科長

病状や状況に応じた最適な医療の提供を心がけています



対象疾患

・原発性肺がんや転移性肺腫瘍などの悪性腫瘍性疾患

・気胸・巨大肺嚢胞などの嚢胞性肺疾患

・胸腺腫を主とする縦隔腫瘍

・重症筋無力症、膿胸、縦隔炎

・悪性胸膜中皮腫、胸壁腫瘍

・肺移植を要する慢性進行性肺疾患 など

診療・研究内容

・原発性肺がん:超音波気管支内視鏡(EBUS)による縦隔リンパ節転移の診断を行い、内視鏡治療から胸腔鏡下手術、拡大手術まで年間約200例の手術を行っています。局所進行肺がんに対して、最新の分子標的薬や免疫療法を併用した周期期治療を行い、治療成績向上に努めています。

・ロボット支援手術:肺腫瘍及び縦隔腫瘍に対して積極的にロボット支援手術を行っています。

・悪性胸膜中皮腫:石綿が主たる原因の予後不良な悪性胸膜中皮腫に対して、積極的に胸腔鏡での生検を行い、免疫療法を中心とした集学的治療の一旦を担っています。

・重症筋無力症:脳神経内科と協力して、免疫抑制剤と手術を組み合わせた治療を行っています。

・呼吸器インターベンション:気道狭窄や気道異物に対して、内視鏡的治療を提供しています。関東地区のセンターとして幅広いエリアから紹介を受け入れています。

・肺移植:2013年に脳死肺移植認定施設となり、これまでに18例の肺移植を行い、待機患者さんも増えています。

麻酔・疼痛・緩和医療科

長谷川 麻衣子 科長

“苦痛を和らげる”“いのちを守る”それが麻酔科医の仕事です



対象疾患

・周期期外来(周期期管理センター)

・ペインクリニック外来

・周期期ハイリスク外来

・緩和ケア相談外来 など

診療・研究内容

・臨床麻酔:すべての患者さんが、安全かつ苦痛なく手術が受けられるように、周期期管理センターでは、看護師、薬剤師とともに周期期外来を行い、さらに、リハビリ、口腔ケアなどの術前介入を多職種連携で系統的に実践しています。麻酔管理が困難と予想される患者さんには、ハイリスク外来で最適な麻酔管理を綿密に計画しており、小児から高齢者、12時間を超える長時間手術であっても、重篤な内科的全身疾患を合併していても最先端の外科治療を受けられるように麻酔管理、全身管理を実践し、患者さんの命を守っています。

・緩和ケア:がん性疼痛などの各症状に対し、薬物治療を中心とした緩和ケアを行っています。院内緩和ケアチーム、緩和ケアセンターでは、多職種で力をあわせ、身体及び精神的な症状の緩和、生活上の問題点などの援助を行います。

・ペインクリニック外来:難治性疼痛に対し、薬物治療、神経ブロック、光線治療器による治療などを組み合わせ、multi-modalな治療を行っています。

整形外科

落合 信靖 科長

関連病院と連携し整形外科全般にわたる高度な医療を提供します



対象疾患

・腰部脊柱管狭窄症

・変形性股関節症

・頸椎性脊髄症

・変形性膝関節症

・肩腱板断裂

・脊柱側弯症

・下肢・手指外傷

・転移性骨腫瘍 など

診療・研究内容

・腰椎(腰椎専門外来):腰部脊柱管狭窄症、脊柱変形に対する手術治療を行っております。骨粗鬆症、サルコペニア、PRPに関する基礎研究および臨床研究を行っております。

・脊髄・頸椎(脊髄・頸椎専門外来):頸椎変性疾患、脊髄腫瘍に対する手術を行っています。脊髄損傷、脊椎脊髄画像診断に関する基礎研究を行っております。

・肩(肩・上肢専門外来):内視鏡手術を数多く行っております。外来では体外衝撃波治療を行っております。

・手(手外科専門外来):切断指などの緊急手術にも対応しています。パフォーミングアーツ医学(PAM)の臨床研究、有限要素解析を用いた骨折や末梢神経再生に関する基礎研究を行っています。

・リウマチ・股関節(リウマチ・股関節専門外来):変形性関節症や大腿骨頭壊死に対する人工関節置換術を数多く行っております。股関節画像診断に関する研究を行っています。

・膝:スポーツ(足専門外来、スポーツ・膝専門外来):関節鏡手術から骨切り術、人工関節置換術まで幅広く取り扱っております。

眼科

馬場 隆之 科長

安全で良質な眼科医療を提供し、患者さんの「見える」を守ります



対象疾患

・網膜剥離

・ぶどう膜炎

・糖尿病網膜症

・角膜炎

・加齢黄斑変性

・神経眼科

・緑内障、白内障

・眼窩疾患(腫瘍や外傷) など

診療・研究内容

・網膜硝子体手術:当科で最も力を入れている分野であり、高度な技術を有する網膜硝子体専門医が、網膜剥離、増殖硝子体網膜症、増殖糖尿病網膜症、黄斑円孔、黄斑前膜等の手術を行っています。

・糖尿病網膜症:内科との綿密な連携の下、増殖網膜症に対し抗VEGF薬併用による網膜光凝固、硝子体手術を行っています。糖尿病黄斑浮腫に対し網膜光凝固、マイクロバルス療法、抗VEGF療法、硝子体手術など病状に適した治療法を行います。

・加齢黄斑変性:臨床、基礎研究に積極的に取り組み、病状に応じて抗VEGF療法や光線力学療法を行います。

・網膜色素変性:新規治療法の開発に積極的に取り組んでいます。

・緑内障:点眼治療でコントロール不良な緑内障に対して、積極的に手術を行っています。低侵襲緑内障手術から、重症例にはチューブシャント手術も行います。

・白内障:難治例に対して積極的に手術を行っています。

・角膜炎:各種薬物療法に加え、千葉県アイバンクの協力の下、角膜移植を迅速に行う体制も整えています。

皮膚科

猪爪 隆史 科長

小児から高齢者まで、診断・治療の難しい皮膚疾患を幅広く診療します

対象疾患

- ・アレルギー性皮膚疾患:接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹など
- ・自己免疫性疾患:天疱瘡、類天疱瘡、円形脱毛症など
- ・皮膚悪性腫瘍:悪性黒色腫、基底細胞がん、血管肉腫など
- ・炎症性角化症:尋常性乾癬など
- ・皮膚感染症:細菌、ウイルス、真菌感染など など

診療・研究内容

- ・アトピー性皮膚炎:外用療法、免疫抑制剤内服、生物学的製剤など症状に応じて適切に治療を行います。
- ・乾癬:外用療法、光線療法、レチノイドや免疫抑制剤など内服療法に加え、生物学的製剤による治療も行います。
- ・水疱症:蛍光抗体法などの検査による診断確定後、ステロイドや免疫抑制剤、血液浄化法による治療を行います。
- ・リンパ腫:主に菌状息肉症などを治療します。皮膚生検、全身検索施行後、病期を決定し、各病期に適した治療を行います。
- ・皮膚外科:ダーモスコピーや体表超音波検査、皮膚生検を行い、診断後、治療を行います。特に悪性腫瘍に対しては、手術療法の他、病期に応じて放射線療法や化学療法、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的薬を併用します。またセンチネルリンパ節生検も行います。
- ・円形脱毛症:主に局所免疫療法、紫外線療法、ステロイド外用による治療を行っています。症状が強い場合には、ステロイド内服・点滴による治療も行います。



耳鼻咽喉・頭頸部外科

花澤 豊行 科長

患者さんが安心して任せられる高度な医療を提供します

対象疾患

- ・鼻副鼻腔・口腔・咽喉・喉頭・唾液腺・甲状腺における腫瘍性疾患
- ・花粉症を含むアレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎などの鼻関連疾患
- ・発声障害の原因となる声帯ポリープ・声帯麻痺などの喉頭関連疾患
- ・突発性難聴・顔面神経麻痺などの難治性耳関連疾患 など

診療・研究内容

- ・頭頸部がんの治療:手術を中心に放射線療法と数々の化学療法を組み合わせる高い治療成績を収めています。また、腫瘍切除後の再建手術も独自に行っています。
- ・内視鏡下鼻内手術:慢性副鼻腔炎だけでなく、鼻副鼻腔に発生した良性・悪性腫瘍に対しても高度な内視鏡下手術を導入しています。
- ・細胞免疫療法:長年研究してきたNKT細胞を用いた免疫療方は、現在、iPS細胞を利用したNKT細胞治療として、頭頸部癌の再発患者さんに対して臨床試験中です。
- ・アレルギー性鼻炎(スギ花粉症):当科が中心となって開発した舌下免疫療法に加え、新規治療法の臨床試験を行っています。
- ・喉頭および咽頭疾患:発声障害の原因となる声帯ポリープ・声帯麻痺や症状が出にくい早期咽頭がんなどに対して内視鏡下手術も併用した治療を積極的に行っています。
- ・超音波診断:唾液腺・甲状腺腫瘍や頸部リンパ節腫脹の早期診断や治療方針の確定に利用し、高い治療成績を生み出しています。

リハビリテーション科

村田 淳 科長

傷病に伴う障害を医学的に診断治療し、早期機能回復と社会復帰を図ります

対象疾患

- ・脳卒中や脳腫瘍などの脳疾患
- ・脊髄症や脊髄損傷などの脊髄疾患
- ・変形性関節症などの骨関節疾患
- ・神経筋疾患
- ・切断
- ・小児疾患
- ・呼吸器疾患
- ・循環器疾患 など

診療・研究内容

- ・筋電図外来:筋力低下、筋萎縮など脊髄や末梢神経、筋などの病気が疑われる患者さんに、診断や機能的予後の推測、リハビリテーション目標設定の参考のために、針筋電図および神経伝導検査を実施しています。
- ・嚥下造影検査:嚥下障害の重症度評価のため実施しています。誤嚥の有無や誤嚥しにくい食形態や姿勢についての情報が得られ、経口からの食事をより安全に進めていくことができます。
- ・義肢装具療法:医師の処方に基づいて、一人ひとりの状態に応じた義肢・装具を製作し、身体機能の改善や日常生活動作の向上のために必要な、義肢装具の選定や調整、使い方の指導等を行っています。身体機能や生活環境に最も適した物を作成するために、リハビリテーション科医・義肢装具士、理学療法士、作業療法士などによる総合的な診療を行っています。

精神神経科

新津 富央 科長代理

こころの病を対象に診察し、新しい治療に積極的に取り組んでいます

対象疾患

- ・統合失調症などの精神病的障害
- ・うつ病・双極性障害などの気分障害
- ・パニック症・強迫症などの不安症
- ・摂食障害
- ・認知症
- ・自閉スペクトラム症
- ・注意欠如多動症
- など

診療・研究内容

統合失調症、気分障害などは、根拠に基づき、合理的な薬物療法を行っています。麻酔科の協力のもと、電気けいれん療法も行っています。県内医療機関と連携して入院によるクロザピン療法も実践しています。

不安症や摂食障害などの治療には、認知行動療法を取り入れており、外来治療のほか、入院による集中的な治療も可能です。

こどものこころ診療部と連携し、児童思春期の問題にも対応しています。

薬物依存、認知症、器質性精神障害などでは、頭部画像検査、脳血流検査、脳波、神経心理検査などを用いて診断しています。

新薬の治験、医師主導型自主臨床試験など、精神障害の病態解明や新しい診断法・治療法の開発と普及に取り組んでいます。

歯科・顎・口腔外科

鵜澤 一弘 科長

患者さん中心の全人的かつ総合的な医療を提供します

対象疾患

- ・口腔腫瘍、口腔粘膜疾患
- ・顎関節疾患(顎関節症など)
- ・炎症(顎骨炎、顎骨壊死など)
- ・顎変形症(反対咬合など)
- ・顎顔面インプラント治療
- ・外傷(顎骨骨折、歯の脱臼など)
- ・嚢胞性疾患(顎骨嚢胞など)
- ・鎮静下歯科治療 など

診療・研究内容

- ・口腔悪性腫瘍:根治性を高めながらも、術後の機能障害を最小限にするため、日々手技の研鑽を行っています。また、各診療科と協力し、切除から再建、術後リハビリテーションまでを一貫して行います。
- ・インプラント治療:一般的なインプラント治療も行いますが、悪性腫瘍手術により顎骨や歯の欠損を生じ、従来の方法では咀嚼機能の回復が困難な症例に対する治療を中心に行っています。
- ・顎関節疾患(顎関節症):X線CTやMRI、顎運動解析装置などを使用し、精査を行います。治療は薬物療法、スプリント療法を中心に低侵襲で、効果的な治療を選択して行っています。
- ・歯および歯周組織疾患(嚢胞や炎症など):抜歯困難な智歯などの抜歯や嚢胞の摘出、炎症の消炎処置などを行っています。必要に応じて全身麻酔下での手術や入院が必要になることもあります。
- ・口腔健康管理:全身麻酔手術や抗がん剤などの化学療法を受けられる方に対し、合併症の予防を目的とした口腔ケアを行っています。

形成・美容外科

三川 信之 科長

形態や色調異常を手術治療によって改善し、生活の質(QOL)の向上を目指します

対象疾患

- ・頭蓋顔面骨変形、顎変形症
- ・口唇口蓋裂などの先天性異常
- ・乳房再建などの各種再建手術
- ・顔面神経麻痺
- ・手・足の先天異常
- ・熱傷と熱傷後瘢痕拘縮
- ・顔面外傷、顔面骨骨折
- ・褥瘡、四肢の潰瘍 など

診療・研究内容

当科は体表のあらゆる形態異常や色調異常を手術治療によって改善し、患者さんの精神的負担を軽減させ、社会に復帰してもらうことを目的としています。特定の臓器のみを対象とするものではなく、全身を扱うため、全身の形態、機能についてあらゆる知識を有していません。患者さんが社会復帰し、前向きな人生を再び歩み出していけるよう、より良い診療を提供します。

- ・頭蓋顔面外科:頭蓋縫合早期癒合症・小顎症・上顎形成不全などに対し、上下顎骨切り移動、頭蓋骨延長術・眼窩骨切り移動術および下顎骨延長術に積極的に取り組んでいます。
- ・小児先天異常:口唇口蓋裂などの先天性形態異常に対する治療を行います。
- ・乳房再建:乳癌切除後欠損に対する整容的修復術を行います。
- ・リンパ浮腫:リンパ管細静脈吻合術による治療を行います。
- ・体表の母斑や血管腫:レーザーまたは外科的治療を行います。
- ・眼瞼下垂:挙筋前転法や吊り上げなどによる治療を行います。
- ・美容外科:各種、美容的形成術を行います。

脳神経外科

樋口 佳則 科長

脳と脊髄・神経を守るために、脳神経外科領域の高度な医療を提供しています

対象疾患

- ・脳卒中
- ・頭蓋底腫瘍(髄膜腫など)
- ・間脳下垂体腫瘍
- ・悪性脳腫瘍(グリオーマなど)
- ・良性脳腫瘍(神経鞘腫など)
- ・パーキンソン病、不随意運動症
- ・三叉神経痛、片側顔面痙攣
- ・脊椎脊髄疾患 など

診療・研究内容

- ・脳卒中:くも膜下出血、脳出血および脳梗塞に対して救急治療を行っています。また脳動脈瘤、内頸動脈狭窄症の予防的治療を行っています。
- ・頭蓋底腫瘍:難治症例に顕微鏡手術、内視鏡手術を用い摘出を行い、定位放射線治療を組み合わせた包括的な治療を行っています。
- ・悪性脳腫瘍:分子診断などにより治療計画を立て、手術・化学療法・放射線治療を行っています。覚醒下手術により機能温存に努めています。
- ・良性脳腫瘍:髄膜腫、神経鞘腫などの高難度手術を神経モニタリング下に行っています。
- ・間脳下垂体腫瘍:経鼻的内視鏡手術による低侵襲手術を行っています。
- ・三叉神経痛・片側顔面けいれん:完治を目標とした微小血管減圧術を行っています。
- ・パーキンソン病・不随意運動症:ジストニア、痙攣:脳深部刺激療法やバクロフェン髄注療法を行っています。
- ・正常圧水頭症:診断から手術治療(シャント術)を行っています。
- ・脊椎脊髄疾患:キアリ奇形、脊髄腫瘍、脊柱管狭窄症に対して外科治療を行っています。

脳神経内科

桑原 聡 科長

脳・神経・筋疾患全般にわたり先進的な医療を提供します

対象疾患

- ・脳卒中
- ・パーキンソン病
- ・筋萎縮性側索硬化症
- ・脊髄小脳変性症
- ・認知症
- ・多発性硬化症
- ・重症筋無力症
- ・末梢神経疾患 など

診療・研究内容

- ・認知症:アルツハイマー病などの認知症性変性疾患を対象に、治療やケアを提供しています。核医学検査など先進的な手法を用いた研究を行っています。
- ・パーキンソン病:パーキンソン病などの錐体外路系疾患を対象とした診療を行っています。患者さんの状態に応じて、薬物療法やリハビリテーション、脳深部刺激療法等を提案します。
- ・末梢神経疾患:様々な末梢神経疾患の診療を行っています。正確な診断と最善の治療を提供することを心がけています。病態研究や新規治療開発も積極的に行っています。
- ・多発性硬化症:多発性硬化症、視神経脊髄炎などを対象とした専門外来を行っています。新規治療の治験へも積極的に参画しています。免疫学的なアプローチによる病態研究を積極的に行っています。
- ・重症筋無力症:国内有数の患者さんの診療にあたっています。生物学的製剤などの新規治療開発を行っています。病態解明に関する基礎的研究も精力的に行っています。

13

14

婦人科

甲賀 かをり 科長

女性の健康と生活の質の向上を
生涯にわたって総合的に支援します

対象疾患

・子宮頸がん

・子宮体がん

・卵巣がん

・絨毛性疾患

・子宮筋腫

・子宮内膜症

・不妊症

・月経・ホルモン異常 など

診療・研究内容

・子宮頸がん:病気や症状に応じて、他診療科と連携し、集学的治療を行います。早期では手術、進行例では、放射線治療や化学療法を行います。

・子宮体がん:早期では、腹腔鏡手術・ロボット支援手術による低侵襲手術や妊孕性温存治療を行います。

・絨毛性疾患:絨毛瘍を含めた全ての疾患の治療を行います。

・卵巣がん:腹腔内に広がった進行卵巣がんには、専門の手術チームによる拡大摘出手術で切除し、治療成績を向上させています。

・生殖内分泌・不妊:思春期・ホルモン・更年期の異常や月経関連疾患に対する専門的診断・治療を行います。体外受精や子宮・腔の奇形に対する手術、帝王切開癒痕部の修復手術を行います。若いがん患者さんに対する妊孕性温存治療を行います。

・良性腫瘍:子宮筋腫や腺筋症・子宮内膜症・卵巣嚢腫に対して、腹腔鏡手術・子宮鏡手術・ロボット支援手術を行います。大きな子宮筋腫に対してもできる限り子宮を残す治療を行います。

小児科

濱田 洋通 科長

子ども達の味方です。お子さんとご家族が
安心し、納得できる医療を提供します

対象疾患

・アレルギー疾患、膠原病、リウマチ、免疫不全症

・神経疾患、発達の違い、てんかん

・新生児疾患

・感染症、感染予防

・心臓病

・血液疾患、小児がん

・成長障害、内分泌疾患、糖尿病 など

診療・研究内容

一般小児疾患の診療のほか、慢性疾患、複合する病気のお子さんの診察を行っています。

・免疫・アレルギー:気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、小児膠原病、原発性免疫不全症。食物経口負荷試験、生物学的製剤、急速経口免疫療法を行っています。

・感染症:慢性の呼吸器感染症、尿路感染症、上部消化管機能異常、免疫不全症の感染予防、ワクチン相談。

・神経:てんかん、脳炎・脳症、脳変性疾患、ミトコンドリア病、Gorlin症候群。

・血液・腫瘍:血液疾患、小児白血病・悪性リンパ腫・神経芽腫・横紋筋肉腫などの小児がん、造血幹細胞移植を行っています。

・循環器:先天性心疾患、川崎病、心臓検診、成人先天性心疾患。

・内分泌:低身長・成長障害、性発達異常、甲状腺疾患、小児糖尿病など。

・新生児:低出生体重児、病的新生児、疾病合併母体からの出生児をNICU・GCUで集中治療を行います。

産科

甲賀 かをり 科長

様々な病気を抱えたお母さんや赤ちゃんに
安心していただける高度な医療を提供します

対象疾患

・合併症妊娠(糖尿病、高血圧、膠原病など)

・妊娠合併症(妊娠高血圧症、多胎妊娠、胎盤異常など)

・胎児異常 など

診療・研究内容

産科では、総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊娠などの管理を行っています。

・母体:妊娠前から病気のある方や、妊娠中に高血圧や糖尿病などの病気を発症した妊婦さんについて、内科、外科、精神科、小児科などと連携して妊娠分娩管理を行います。MFICU(母体胎児集中治療室)では、県内各地域からの搬送を受け入れ、24時間体制でハイリスク妊娠の治療にあたっています。産科危機的出血(分娩時大量出血)、妊産婦の意識障害などに対しては、コードむらさき、コードXなど救急救命システムを整備し、他科と連携して高度救命救急医療を提供しています。また、妊婦さんの薬相談や、出生前診断に関する相談に対応しています。

・胎児:胎児疾患について、超音波検査やMRI等による精密診断を行います。出生後スムーズに治療できるよう、小児科・NICU、小児外科、千葉県子ども病院と連携して管理します。

小児外科

菱木 知郎 科長

先端の医療を展開し、子ども達の健やかな成長と
明るい未来を守ります

対象疾患

・ヘルニア関連疾患

・新生児外科疾患

・消化器疾患

・肝胆道疾患

・泌尿生殖器疾患

・悪性固形腫瘍

・胸部外科疾患

・炎症性腸疾患 など

診療・研究内容

・新生児外科疾患:出生前より他科と連携し、きめ細やかな周産期医療を提供します。出生後はNICU・GCUで集中治療を行います。

・小児悪性固形腫瘍:小児がんの手術に精通した小児がん認定外科医を擁し、がんゲノム医療を含む先端の治療を提供しています。

・肝胆道疾患:胆道閉鎖症の術後脱黄率は80%以上と良好な成績をおさめています。

・先天性消化管疾患:食道閉鎖症・鎖肛・ヒルシュスブルグ病などの先天性疾患に対して、お子さんの成長とQOLを重視した手術を行います。

・炎症性腸疾患:免疫抑制療法・分子標的治療などの内科的治療と体によさしい外科治療を提供しています。

・低侵襲手術:新生児を含むあらゆる年齢のお子さんに胸腔鏡手術・腹腔鏡手術を導入し、からだの負担や傷跡の少ない手術をおこなっています。

・在宅経腸栄養・中心静脈栄養:在宅栄養療法を全国の施設に先駆けて導入し、腸管機能不全や短腸症候群を患う患者さんが安心して日常生活を送れるよう支援しています。

放射線科

宇野 隆 科長

先端診療機器による画像診断と
高精度がん放射線治療、血管内治療を行います

対象疾患

・肺がん

・頭頸部・食道・大腸がん

・乳がん

・肝臓・膵臓・腎臓がん

・前立腺がん

・転移性がん

・子宮頸がん

・その他のがん、甲状腺眼症・血管奇形 など

診療・研究内容

・画像診断:4台のCT、5台のMRI装置を用いて正確な画像診断に努めています。画像データを元に手術のための3D・4D画像など再構成画像の作成も行っています。核医学部門では、PET-CT検査、各種脳SPECT検査など体の機能をみる検査を行っています。

・IVR:血管内にカテーテルを入れて、血管造影検査を行います。その手技を用いた血管塞栓術、血管形成術、がんの抗がん剤塞栓治療、血管奇形の治療など低侵襲な各種血管内治療を行っています。

・外部照射:放射線治療装置3台を備え、強度変調放射線治療、体幹部定位放射線治療などの高精度がん放射線治療をあらゆるがん患者へ提供しています。1.5T-MRリニアックによる新たなMR画像誘導即時適応放射線治療を行っています。

・小線源治療:主に子宮頸がんに対する腔内照射や組織内照射を行っています。ハイブリッド照射用の新しいアプリケーションを用いてMRIによる3次元画像誘導小線源治療を行っています。

総合診療科

上原 孝紀 科長代理

診断のついていない症候や健康問題を有する
患者さんの診療を行います

対象疾患

当科では総合診療を「診断のついていない症候や健康問題を有する患者さんの生物・行動・社会的な問題に対する、原因臓器に限定されない包括的な切り口での診療」と定義しています。原因臓器、紹介先診療科が特定できない患者さんを当科にご紹介下さい。

診療・研究内容

・診療

1人の患者さんに複数の医師が携わる『チーム医療制』を導入して、診断不明とされた難解な症候や健康問題の解決を行っています。

①外来診療:2018年度より緊急時を除き、当科初診外来は完全セカンドオピニオン制になりました。患者さんの利便性に配慮して遠隔地から受診できるオンラインセカンドオピニオン診療も行っています。

②入院診療:専門診療科に入院している患者さんの包括的評価と診療支援を行っています。

・研究

問診や身体診察の操作特性、AI診断、遠隔診療、初学者と熟練医との診断プロセスなど、診断に関する研究、ICTを活用した身体診察と遠隔教育やChatGPTを用いた模擬患者など、医学教育に関する研究、総合診療科による臓器専門診療科の領域横断的な診療支援、医師偏在、患者受療行動、ドクターショッピング、かかりつけ医に関する研究等、総合診療あるいは診断推論学に関わる研究を多岐に渡って行っています。

病理診断科

池田 純一郎 科長

治療方針決定のために必須な病理診断を
的確に提供し、高度な医療を支えます

対象疾患

・病理診断の対象となる疾患は、ほぼ全科にわたります。

・組織検体数では消化器疾患が最も多く、婦人科・呼吸器・耳鼻咽喉・口腔・乳腺・泌尿器・血液などの疾患が続きます。

・細胞診断の対象としては子宮がんなどの婦人科、肺がんなどの呼吸器、膀胱がんなどの泌尿器疾患の頻度が高くなっています。

・剖検診断では上記の外科病理学的疾患のみならず、代謝性疾患や神経疾患など、病変全般が対象となります。

診療・研究内容

病理診断を通じて治療方針決定、病勢判断、治癒予測や治療効果判定に重要な役割を担っています。また、臓器別カンファレンスや剖検CPCを行い、全科の医学教育に貢献しています。主要な業務には組織診断・細胞診断・剖検診断の3つがあります。組織・細胞診断の検体管理と標本作製・細胞診断スクリーニングは病理部技師により行われます。病理医は標本作製のための肉眼観察と組織切り出し・作製標本に基づく病理診断を行います。現在、病理診断科・病理部・病理学教室がsubspecialtyとして診断・研究に力を入れている分野は次のとおりです。

・呼吸器病理:特に肺がんを中心とした組織診断・細胞診断と臨床病理学的、分子病理学的研究

・さまざまな悪性腫瘍の腫瘍幹細胞をターゲットにした病理学的研究



がんゲノムセンター

市川 智彦 センター長

当院独自の取組および、千葉県がんセンターの「がんゲノム医療連携病院」として、がんに対するがんゲノム解析に基づく先進治療の提案・実施を行います。

がん治療の専門家に加え、臨床検査、遺伝カウンセリング、分子生物学、病理学、ゲノム情報学などの専門家、がん専門薬剤師、がん看護専門看護師などゲノム医療を支える専門スタッフが在籍しています。各診療領域と連携しつつ、これらスタッフががんゲノム情報に基づいて、治験・臨床試験を含む期待できる治療法について検討し（エキスパートパネル）、患者さんに提案します。



未来粘膜ワクチン研究開発センター

清野 宏 センター長

『“痛くない”吸う・飲むワクチン』開発研究を進めています。新型コロナウイルスなどは、鼻・喉など呼吸器粘膜から侵入し、感染します。感染部位である粘膜面に抗体をつけることにより、注射型ワクチンの「発症や重病化を防ぐ効果」に加え、「病原体の侵入そのものを防ぐ効果」も有するワクチン開発を目指しています。また、注射への不安や痛み、医療スタッフの負担も軽減される利点があります。同センターでは、6つの部門が共同で、基礎研究と臨床の両面において連携し、効果的な経鼻・経口ワクチンの研究開発を行っています。



臨床工学センター

中田 孝明 センター長

当院では数多くの医療機器が使用されています。臨床工学センターは医療機器の安全と信頼性を担当し、患者さんの安全と質の高い治療をサポートしています。センターには各部門の専門的な知識を有する「臨床工学技士」が所属しており、機器の管理・保守、最適な医療機器の選択や調整、専門的なアドバイスを提供しています。また、人工呼吸器など、患者さんの生命に関わる高度管理機器とよばれる機器に関して、安全に動作しているか点検のため病棟ラウンドを実施すること、また緊急時や災害時の対応体制や予防策も整備し、いかなる状況においても患者さんの安全を最優先に考えています。



スポーツメディクスセンター

大島 拓 センター長

スポーツメディクスセンターは、スポーツに関わりの深い医師・コメディカルスタッフなど、さまざまな職により構成されています。超高齢社会を迎えた我が国で、スポーツによる健康増進・健康寿命延伸の重要性は高まっており、今後千葉県内のスポーツイベントはますます増えることが予想されます。これらの大規模イベントの開催にあたっては、救護医療体制の整備などさまざまな課題があり、医療面から包括的に支援するためには、多職種間の連携が不可欠です。センターは、病院内外の関連機関と連携し、医療とスポーツを科学的知見・実践の知恵・人材等の観点から連携させる拠点になります。



検査部

松下 一之 部長

日常診療に必要な検体検査（血液・尿・髄液など）情報を24時間体制で正確かつ迅速に提供すると同時に、心電図、超音波、呼吸機能をはじめとする各種生理機能検査を担当しています。検査部は他の中央診療部門と協働して高度先進検査の開発と実用化を目指しています。また、新型コロナウイルスのPCR検査などにも協力して対応し、院内感染対策にも寄与しています。さらに臨床研究中核病院に必要なISO 15189の認定を受け、国際水準の臨床検査レベルを維持しています。それにより国際的治験、臨床共同研究、学術発表や地域医療などの病院機能評価にも貢献しています。検査部一同、臨床検査の品質マネジメントシステムを活用することで、急速に進んでいるゲノム医療に対応するなど、さらなる信頼性の向上を目指しています。



薬剤部

石井 伊都子 部長

薬剤部は薬物治療の安全と安心のため、医薬品の調剤、安定供給、薬学的管理を基本業務としています。部内業務としては処方に対する鑑査と疑義照会、がん化学療法レジメン管理、薬物血中濃度測定と投与設計支援、問合せ対応、病棟での服薬指導、通院治療室での抗がん剤の鑑査と調製、手術部での医薬品管理・調製、PET検査用薬剤の品質検定、患者支援センターでの入院前薬剤チェック、治験薬管理払出し等を院内各部署と連携して行っています。病棟で薬剤師が活動する目的は、患者さんへの薬学的管理や薬剤管理指導、病棟での医薬品管理です。これにより、薬による医療事故の防止や患者さん個別の状態に適した薬物療法が提示でき、より患者さん中心の医療が提供できるようになります。



看護部

筧内 博子 部長

「“じぶんらしく生きる”を支え、未来をつくる」を看護部理念として、生活や人生に寄り添う看護の心を大切に、急性期医療を受ける患者さんの“これから”を見つめて、回復をもたらすために必要な看護をチームで切れ目なく提供しています。

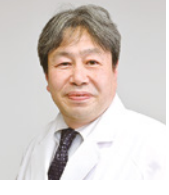
また、大学病院として、人々の健康に幅広く貢献するための生涯学習支援にも力を入れ、千葉大学大学院看護学研究院と連携・協働するとともに、多種多様な教育プログラムにより段階的な学びや自律的な学習のための環境を整えています。さらに、特定行為研修施設として、特定行為に係る実践的かつ高度な知識・技能を修得した看護師の育成にも取り組むことで、患者さんの生命と生活の質向上を目指しています。



臨床栄養部

大塚 将之 部長

臨床栄養部では、安全で美味しく治療に適した食事の提供を行っています。また、過栄養・低栄養状態を改善することで治療効果を高め、合併症を低減するための栄養管理、栄養指導を行っています。臨床栄養部の業務は第一に安全な食事提供のために給食の品質をチェックし、改善することです。第二に、治療を円滑に行うために、栄養管理をすることです。各病棟に担当の管理栄養士を配置し、患者さんにお話を伺ったり、他職種と連携したりして、患者さん個別の状態に合わせて食事内容を変更し、よりよい栄養管理を行っています。また、栄養指導では、患者さんの病気の状態や食生活に合わせて、ご自宅でのお食事の取り方について個別に相談し、自宅療養が行えるように支援しています。



中央診療施設等

検査部 松下一之 部長 正確・精密な臨床検査情報を24時間体制で迅速に提供します	手術部 長嶋 健 部長 安全で効率的な手術運営を行っています	放射線部 宇野 隆 部長 先端の放射線機器を用いた、安全かつ高度な医療を提供します	材料部 落合 信靖 部長 安全な医療器材を確実に提供いたします	人工腎臓部 浅沼 克彦 部長 さまざまな疾患に対する血液浄化法を効果的かつ安全に施行します	集中治療部 大網 毅彦 部長 重症患者さんや大手術後の患者さんに対して、安全で高度な集中治療を提供します	輸血・細胞療法部 三村 尚也 部長 安全で適正な輸血を推進し、高度な細胞療法を提供します
冠動脈疾患治療部 小林 欣夫 部長 急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患の診断と治療を24時間体制で行います	病理部 池田 純一郎 部長 組織・細胞診断を通じて治療方針の決定、病勢判断、治癒予測、治療効果判定に重要な役割を担います	内視鏡センター 加藤 順 センター長 最新の内視鏡システムによる高度な医療を安全かつ適切に提供します	リハビリテーション部 村田 淳 部長 リハビリテーションアプローチにより生活機能や生活の質の向上を図ります	こどものこころ診療部 佐々木 剛 部長代理 こどものこころの病を対象に診察し、新しい治療に積極的に取り組んでいます	臨床工学センター 中田 孝明 センター長 医療機器の点検・修理・管理を通じて患者さんの安全と健康を提供します	臨床腫瘍部 大野 泉 部長代理 有効で安全ながん薬物療法を行い、高い生活の質(QOL)を保てる医療を提供します
遺伝子診療部 市川 智彦 部長 遺伝や遺伝病についての悩み・不安に対応し、遺伝学的検査の最新情報を提供します	認知症疾患医療センター 桑原 聡 センター長 認知症の診断、治療、介護指導、地域連携システム構築を行います	アレルギーセンター 中島 裕史 センター長 アレルギー疾患についての総合的な診断・治療を行い、発症予防法の確立を目指します	周術期管理センター 馬場 隆之 センター長 手術を安心して、安全に受けていただくために、多職種チームが支援します	高齢者医療センター 鈴木 拓児 センター長 健康長寿を実現する多職種チーム医療を提供します	糖尿病コンプリケーションセンター 小野 啓 センター長 あらゆる糖尿病合併症の制圧を目指して取り組んでいます	緩和ケアセンター 長谷川 直 センター長 多職種で連携し、治療と両立した緩和ケアを提供します
包括的脳卒中センター 樋口 佳則 センター長 多職種間連携と最先端医療を組み合わせ最良の脳卒中診療を実現します	周産母子センター 大曽根 義輝 センター長 小さな赤ちゃんたちの健やかな成育とご家族の笑顔のために	肺高血圧症センター 鈴木 拓児 センター長 豊富な診療経験に基づき、質の高い肺高血圧症診療を提供します	認知行動療法センター 清水 栄司 センター長 医師・公認心理師・看護師等が連携し、個人認知行動療法を対面や遠隔で提供します	ブレストセンター 長嶋 健 センター長 乳がん診療に特化したチーム医療を推進し、質の高い医療を提供します	造血細胞移植センター 堺田恵美子 センター長 多職種による包括的な移植チームが円滑かつ質の高い移植医療を提供します	画像診断センター 那須 克宏 センター長 適切な画像検査と画像診断体制を構築し、安全で安心できる医療の提供に努めます
スポーツメディクスセンター 大島 拓 センター長 スポーツに関連したトッパスリート、県民のメディカルサポートを目指します	救命救急センター 大島 拓 センター長 重症患者さんを24時間体制で受け入れ、院内の力を結集した救命を目指します	ハートセンター 松宮 護郎 センター長 重症心不全をはじめとするあらゆる心血管疾患に対し、質の高い医療を提供します	痛みセンター 清水 栄司 センター長 多診療科・多職種での総合的診察を行い、オーダーメイドの痛み治療を提供します	超音波センター 加藤 直也 センター長 超音波を用いた安心・安全かつ高水準な検査と治療で良質な医療に貢献します	コロナワクチンセンター 猪狩 英俊 センター長 HPVワクチンのキャッチアップ接種を重要課題にしました	クオリティ・マネジメント・センター 花澤 豊行 センター長 臨床指標に基づいた組織横断的な改善活動を実施し、医療の質の向上を目指します

運営・教育・研究部門等

企画情報部 鈴木 隆弘 部長 病院情報システムの開発を進め、医療情報の連携と活用に取り組んでいます	医療安全管理部 相馬 孝博 部長 医療の安全性の向上に組織的に取り組んでいます	感染制御部 猪狩 英俊 部長 手指衛生の向上に取り組んでいます。医療DXに取り組んでいます	臨床試験部 花岡 英紀 部長 ともに創ろう、ともに歩もう。よりよい医療を創り社会へ届けることを目指します	患者支援部(患者支援センター) 加藤 直也 部長 患者さんが安心して適切な療養が送れるように外来・入院・退院を総合的に支援します	臨床栄養部 大塚 将之 部長 多職種共同でより良い食事提供と栄養管理により治療効果と生活の質向上を目指します	リプロダクション支援センター 甲賀 かをり センター長 「授かる」「育てる」をワンストップで支援します
総合医療教育研修センター 伊藤 彰一 センター長 千葉大学病院及び地域で働く医療専門職の教育・研修をサポートします	東金九十九里地域臨床教育センター(東千葉メディカルセンター内) 伊藤 彰一 センター長 プライマリケア、救急診療、各専門診療の幅広い研修機会を提供します	未来開拓センター 本橋 新一郎 センター長 未来へ向けた新しい治療法の研究開発と実用化を目指します	国際医療センター 菱木 知郎 センター長 世界水準の大学病院を目指し、医療の国際展開を推進します	がんゲノムセンター 市川 智彦 センター長 がんのprecision medicine(精密医療)と高度医療を提供します	メドテック・リンクセンター 林 秀樹 センター長 もの作りの視点で対応可能なあらゆる病院内の改革アイデアに取り組みます	
東洋医学センター 勝野 達郎 センター長 体質に合わせた漢方薬治療と鍼灸治療を提供します	成田赤十字病院肺がん治療センター 澁谷 潔 センター長 成田赤十字病院と連携した新しい形のがん医療を“成田地区の肺がん診療”で実現します	病院経営管理学研究センター 井上 貴裕 センター長 戦略的病院経営を推進し、地域医療のさらなる健全化を目指します	浦安リハビリテーション教育センター 落合 信靖 センター長 リハビリにおける、教育、研究、臨床の実践、健康寿命の増進を目指します	スタッフケアセンター 諏訪園 靖 センター長 患者さんへの良質な医療の提供増進に努めます	移行期医療支援センター 桑原 聡 センター長 小児期から成人期へ、切れ目なく安心して医療を受けられるように支援します	
医師キャリア支援センター 浅沼 克彦 センター長 持続可能な医療を提供するために、医師の多様な働き方を支援しています	千葉県肝疾患相談センター 加藤 直也 センター長 千葉のみなさまに肝臓のことをもっと知ってもらうよう広報や相談の活動をしています	未来粘膜ワクチン研究開発センター 清野 宏 センター長 体にやさしい、吸う・飲むワクチン開発研究を進めています	薬剤部 石井 伊都子 部長 医療チームの一員として他職種と連携し良質な薬物治療の提供に貢献します	看護部 箭内 博子 部長 患者さんの“これから”を見つめた看護を、チームで切れ目なく提供します	事務部 小山田 享史 部長 6課体制のもと各部署と連携しつつ、機動的で円滑な病院運営に取り組んでいます	病院長企画室 井上 貴裕 室長 医療の質と経済性を両立するための分析、企画、そして実行を支援していきます

毎年「経営戦略」を定め、より良質な医療の提供と
病院経営の効率化に取り組んでいます。



名称

所在地

病床数

(2024年4月1日現在)

千葉大学医学部附属病院

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

850床

敷地面積

建築面積

延床面積

78,537.72㎡ ※医療法上

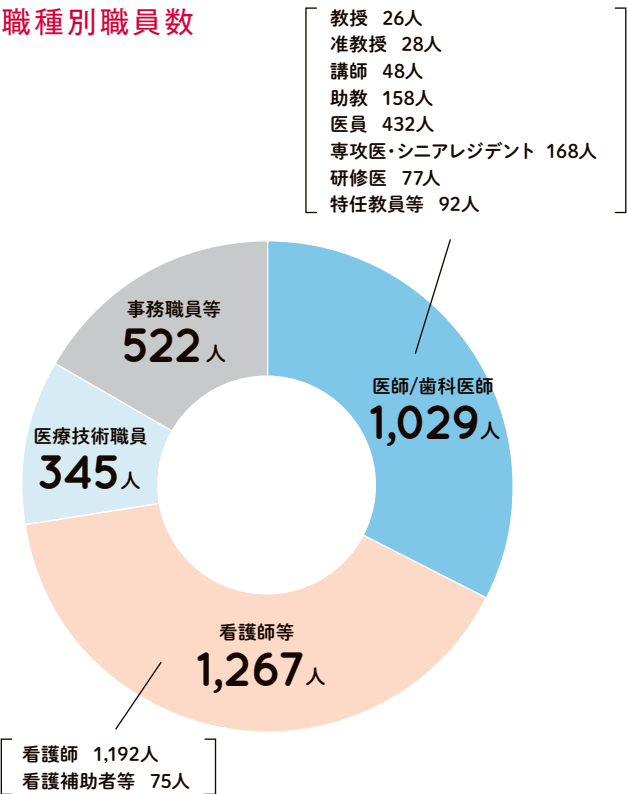
25,557.74㎡ ※医療法上

139,851.11㎡ ※医療法上

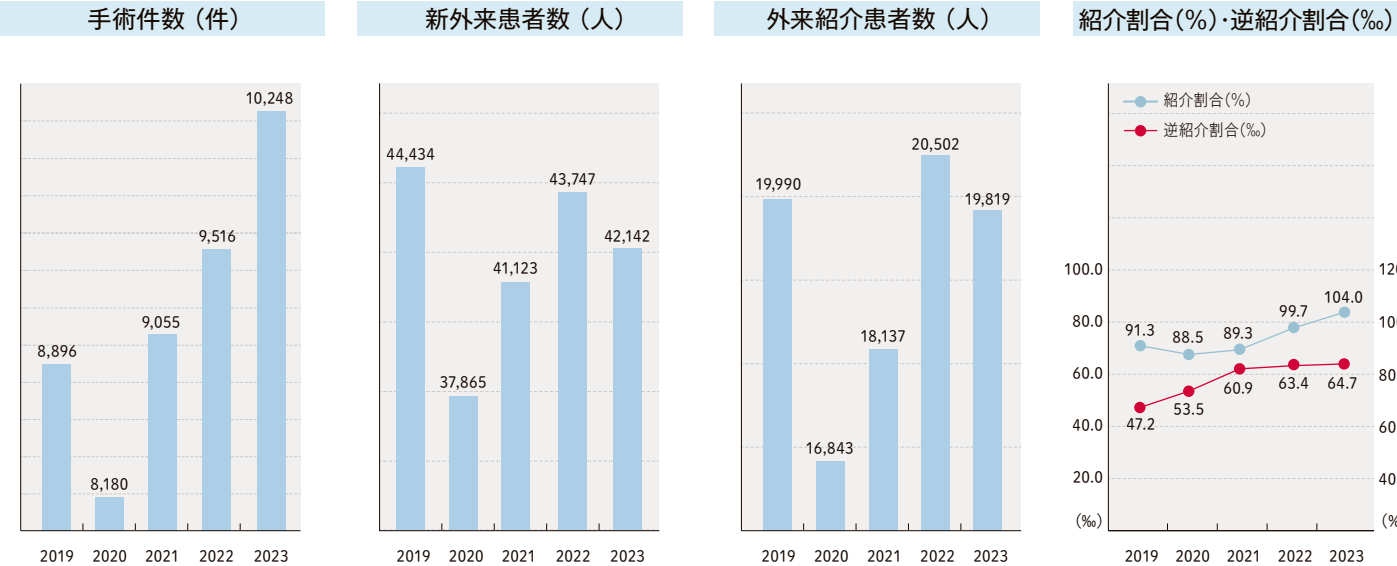
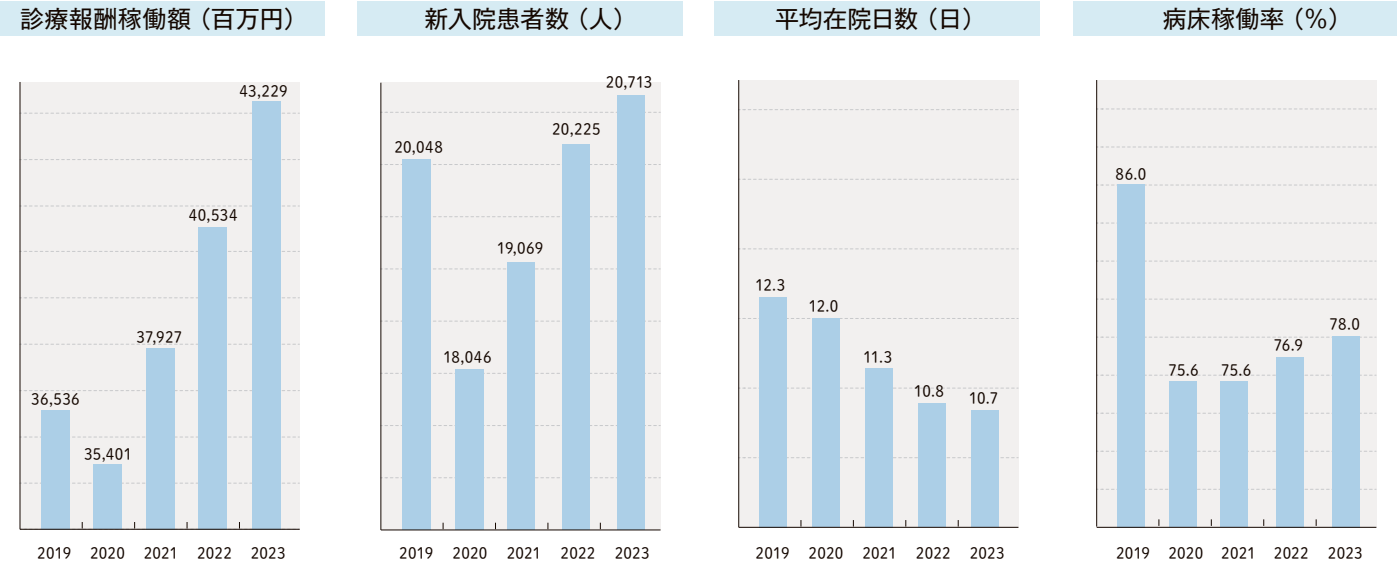
職員数

全職員数
3,163人 (2024年4月1日現在)

患者さんの治療には、医師・歯科医師、看護師をはじめ、薬剤師や管理栄養士、診療放射線技師、臨床工学技士、理学療法士など、それぞれに専門知識を持つ多職種の医療技術職員が働いています。当院では、多くの医療スタッフが緊密に連携をとりながら診療にあたる「チーム医療」に取り組んでいます。



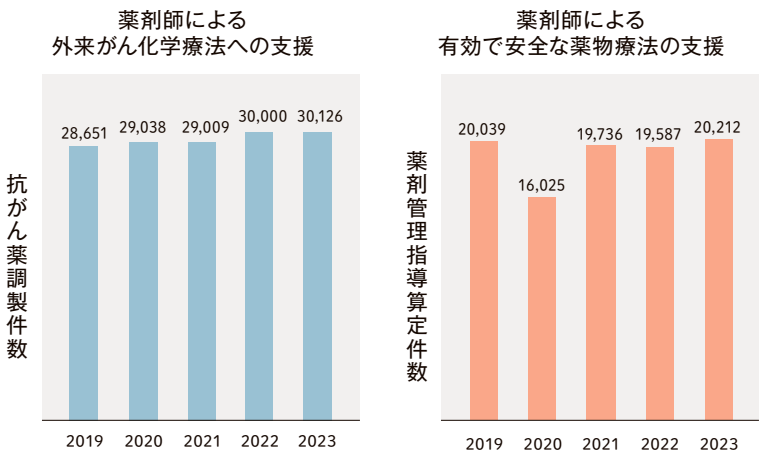
病院実績



診療科別の新入院患者数・新外来患者数・手術件数・病床数（2023年度）

診療科名		新入院患者数(人)	新外来患者数(人)	手術件数(件)	病床数(床)
内科	消化器内科	1,868	2,611	42	46
	血液内科	405	610	16	24
	腎臓内科	341	504	63	10
	アレルギー・膠原病内科	181	723	0	15
	糖尿病・代謝・内分泌内科	394	1,059	0	14
	循環器内科	1,729	2,785	253	38
	呼吸器内科	775	1,210	1	28
	和漢診療科	23	197	0	2
	感染症内科	0	158	0	0
	腫瘍内科	45	191	0	4
外科	心臓血管外科	493	447	566	25
	食道・胃腸外科	1,267	719	638	61
	肝胆膵外科	806	395	372	39
	乳腺外科	319	447	279	8
	呼吸器外科	610	474	368	20
	麻酔・疼痛・緩和医療科	10	4,019	4	4
	泌尿器科	917	1,031	552	23
	救急科	1,256	2,061	0	5
感覚運動	整形外科	929	2,503	1,094	44
	眼科	1,570	3,197	2,545	20
	皮膚科	306	1,375	222	10
	耳鼻咽喉・頭頸部外科	690	1,498	439	33
	歯科・顎・口腔外科	313	4,865	428	11
脳神経・精神	形成・美容外科	485	993	448	13
	精神神経科	335	449	407	45
	脳神経外科	952	1,071	513	30
小児・母性・女性	脳神経内科	379	1,296	1	22
	婦人科	974	1,119	419	25
	産科	698	709	260	24
	小児科	1,197	1,417	4	27
放射線	小児外科	332	474	290	12
	放射線科	49	688	2	3
総合	総合診療科	1	320	0	1
	人工腎臓部	28	12	22	1
中央診療	冠動脈疾患治療部	36	0	0	1
	内視鏡センター	0	3	0	0
	リハビリテーション部	0	207	0	0
	こどものこころ診療部	0	61	0	0
	遺伝子診療部	0	244	0	0

外来化学療法・薬剤管理指導 実績



過去には入院して十分な観察下で行われていたがん化学療法が、薬物療法の進歩により普段の生活の続けながら外来で実施する時代となっています。抗がん薬の取扱いを熟知している薬剤師は安心・安全な化学療法をサポートするため、安全キャビネット内で無菌のかつ正確な抗がん薬調製を実施しています。

新たな効き目をもった医薬品が続々と登場し、病気の治療が進歩しています。薬の効果が高まる一方で適切に使用しないと副作用のリスクが高まります。薬剤師は薬剤管理指導（服薬指導）を通じて薬の正しい使用方法や管理方法、予想される副作用などについて患者さんに説明し、医師や看護師と協働して有効で安全な治療を提供できるよう努めています。

救急外来患者数（2023年度）

疾患	件数(件)
外傷	792
呼吸器系疾患	645
消化器系疾患	951
循環器疾患	611
泌尿器生殖器系疾患	334
脳血管疾患	229
代謝性疾患	95
新生物(腫瘍)	442
妊娠、分娩及び産じょく(褥)	451
その他	3,722
総計	8,272

分娩件数（2023年度）

524 件	正常分娩	(成熟児) 180件 (未熟児) 73件 (その他) 7件
	異常分娩	(成熟児) 163件 (未熟児) 82件 (その他) 8件
	その他	11件

臓器移植件数（2023年度）

脳死総数	9 件	生体総数	19 件
腎臓		肝臓	
脳死 2件 / 生体 18件		脳死 2件 / 生体 1件	
心臓		肺	
脳死 3件		脳死 2件 / 生体 0件	

MRリニアック治療実績
（2021年12月～2024年3月）

180 件		その他の内訳	
前立腺がん	99件	子宮頸がん	3件
肝臓がん	36件	子宮体がん	2件
肺がん	12件	卵巣がん	3件
膵臓がん	8件	食道がん	1件
腎臓がん	11件	胸腺がん	1件
その他	14件	大腸がん	1件
(リンパ節、骨転移など原発以外への照射)		虫垂がん	1件
		乳がん	1件
		リンパ腫	1件



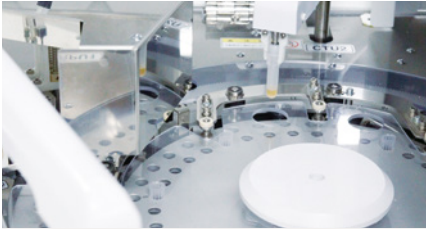
臨床検査実績(2023年度)

中央採血室



外来診療時の静脈採血、糖負荷試験
169,953件

生化学・免疫検査



[生化学的検査] 肝・腎機能検査など
4,851,954件
[免疫学的検査] 抗体検査、腫瘍マーカー、
ホルモンなど
472,815件

血液・一般検査



[血液学的検査] 血算、骨髄像、
凝固能・線溶能検査など
806,240件
[一般検査] 尿定性、尿沈渣、尿定量、
脳脊髄液検査
206,533件

細菌検査



検体中の病原体検査
73,184件

生理機能検査



呼吸循環機能検査、超音波検査、
脳波検査、神経・筋検査
64,893件

遺伝子検査



病原体、悪性疾患、
遺伝性疾患などの遺伝子検査
18,168件

画像診断・放射線治療実績(2023年度)

放射線治療



リニアック
外照射／745名
小線源治療／31名

CT検査



CT
41,692件

MRI検査



MRI
13,694件

一般撮影



ワイヤレス型フラットパネルディテクタ
単純撮影／141,966件
造影撮影／4,560件 骨塩定量／3,007件

血管造影検査



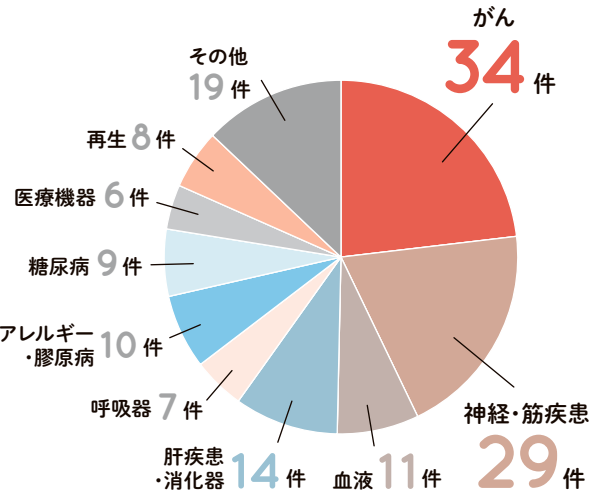
血管造影装置
診断／1,311件
IVR /2,245件

核医学検査

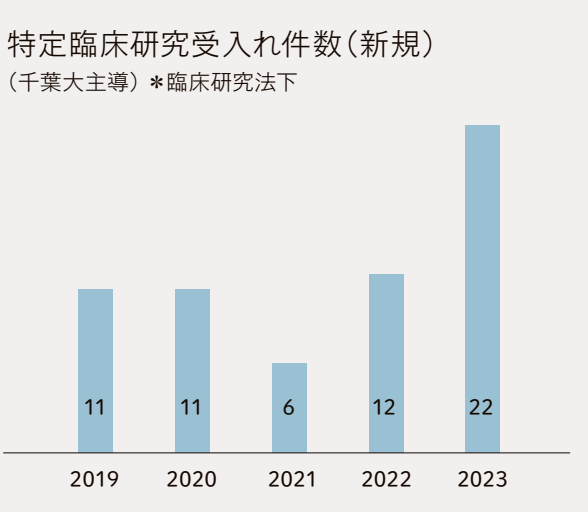
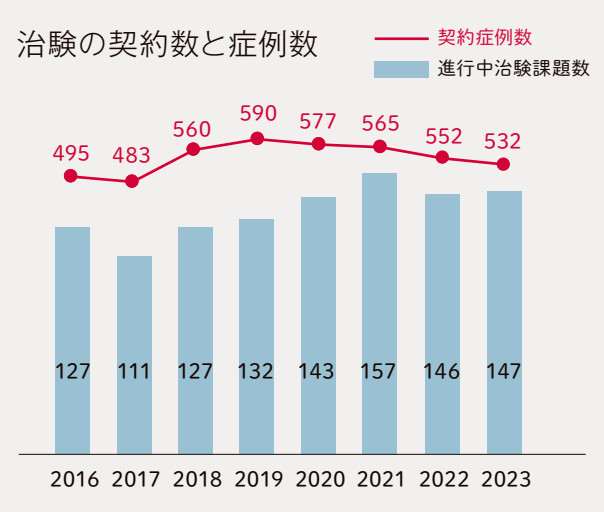


PET-CT
RI検査／2,420件
PET検査／1,977件

治験・自主研究実施件数



- 医師主導治験
- ①家族性レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ(LCAT)欠損症に対するLCAT遺伝子導入前脂肪細胞の自家投与による再生医療／
遺伝子治療の医師主導治験(投与後240週間)[長期継続試験]
 - ②新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するフルボキサミンの重症化予防
効果に関するプラセボ照二重盲検無作為化比較試験
第二相試験
 - ③不眠症患者に対する認知行動療法アプリ(IIP MED:スリーピーメド)の有効性
および安全性を評価するためのゾルピデム酒石酸塩を対照とした2群のランダム
化非盲検多施設共同探索試験
 - ④再発・進行頭頸部癌患者を対象としたiPS-NKT細胞動注療法に関する第I相
試験(First in human試験)
- 他6件



臨床倫理の基本方針

患者さんに対する姿勢	医療者としての姿勢	研究等に対する姿勢
私たちは、患者さんの人権を最大限尊重するとともに、患者さんと協力し、患者さんにとっての最善の医療を提供します。 ・患者さんの人権を守ります。 ・患者さんのプライバシーを保護し、職務上の守秘義務を遵守します。 ・医療内容について十分説明し、患者さんの自己決定権を尊重します。	私たちは、生命倫理に関する関係法令、ガイドラインおよび院内規約等を遵守し、質の高い医療を実践します。 ・公共の福祉と法規範を遵守します。 ・患者さん個人の価値観を大切にします。 ・品格を高く保ち、職責を自覚し、倫理的に振る舞います。 ・医療の安全管理に最大限の努力を払います。 ・多職種が互いに敬意を払い、協働するとともに、組織運営に参画します。	私たちは、臨床研究に関する関係法令、ガイドラインおよび院内規約等を遵守し、医療の進歩に必要な研究を実践します。 ・医療の公共性を重んじ、社会の発展に尽くします。 ・倫理的な問題を含む臨床研究等は、十分審議のうえ、方針を決定します。

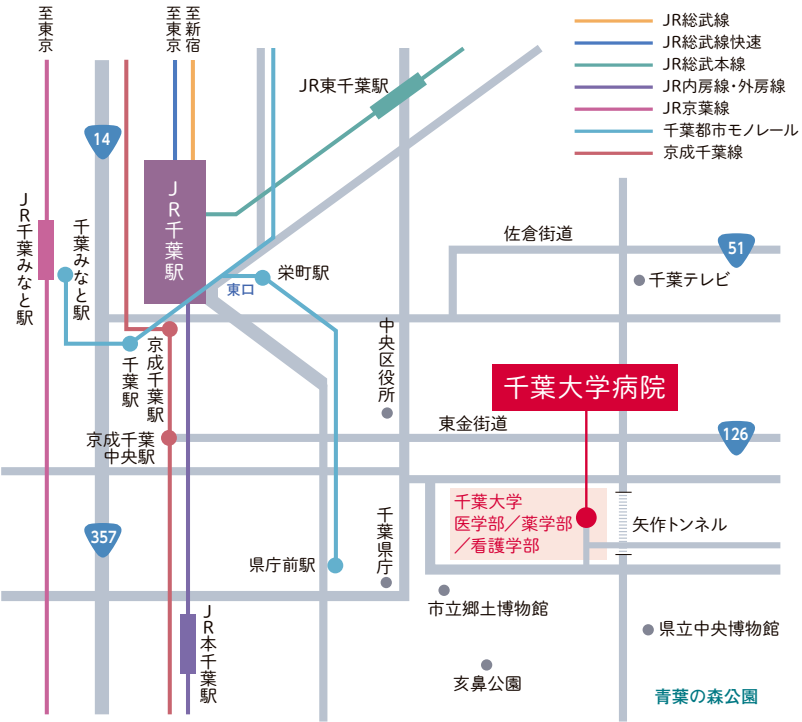
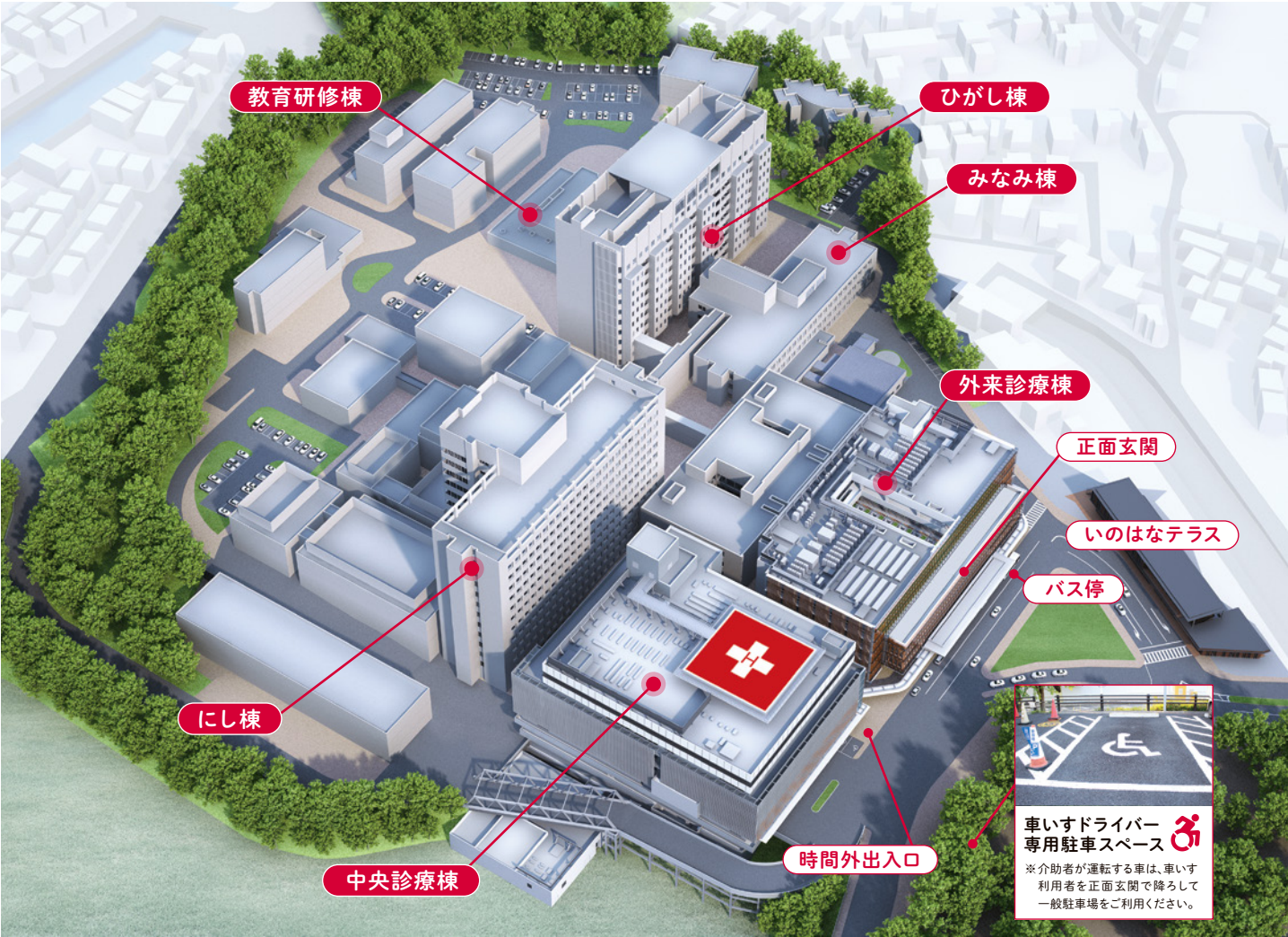
紹介患者初診受付一覧表(医療機関の方へ)

紹介の留意点をご確認のうえ、紹介状を作成お願いいたします。

初診受付区分	
①	FAX予約が必要です。血液内科、食道・胃腸外科、呼吸器外科、整形外科腰椎外来、痛みセンター、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、産科、放射線科MRリニアックは、医療機関からFAX予約をお願いします。
②	患者さん本人または医療機関の予約が必要です。当院ホームページの各診療科の受診案内をご確認のうえ、初診予約をお願いします。
③	予約は不要です。初診受付可能日に患者さん本人がご来院のうえ、受診手続きをお願いします。
④	FAX予約が可能です。医療機関からFAX予約による初診予約が可能です。
⑤	医療機関からの電話予約が必要です。

2024年3月現在

	診療科名	初診 受付区分	予約方法	FAX予約方法可能日 (医療機関のみ)	初診受付可能日					紹介の留意点
					月	火	水	木	金	
内科	消化器内科	③	不要	—	○	○	○	○	○	
	血液内科	①	FAX予約(医療機関)可能	月~金 (10:00/10:30/11:00)	○	○	○	○	○	
	腎臓内科	②	電話予約(患者)	—	午前のみ	午前のみ	午前のみ	午前のみ	午前のみ	診療は午前のみ 腎臓病は診察しておりません。
	アレルギー・ 膠原病内科	②④	電話予約(患者) FAX予約(医療機関)可能	月・木(9:00/10:00/11:00) 火・金(9:00/11:00) 水(9:00)	○	○	○	○	○	
	糖尿病・代謝・ 内分泌内科	②	電話予約(患者)	—	○	○	○	○	○	肥満症は火曜日、脂質異常症は 月・水曜日を推奨します。
	循環器内科	③	不要	—	○	○	○	○	○	
	呼吸器内科	⑤	電話予約(医療機関のみ) 平日 14:00~16:30	—	午前のみ	午前のみ	午前のみ	午前のみ	午前のみ	紹介状を当科外来へ事前に FAX(043-226-2713)が必要です。
	和漢診療科	②	電話予約(患者)	—	○	○	○	○	○	予約は手紙・FAXのみ (和漢診療科HP参照) 新型コロナ感染後症状漢方外来 は水曜日のみです。
	感染症内科	②	電話予約(患者)	—	○	○	○	○	○	第1月曜日は予約不可。 真菌症は月・水・金曜日。
	腫瘍内科	②	電話予約(患者)	—	—	○	—	—	○	
	心血管外科	②	電話予約(患者)	—	○	○	○	○	○	
	食道・胃腸外科	①	FAX予約(医療機関)のみ	月・火・木 (9:00/10:00/11:00)	○	○	—	○	—	痔は診療しておりません。 ヘルニアは要相談。
外科	肝胆脾外科	③④	不要 FAX予約(医療機関)可能	月・水・金 (9:30/10:00)	○	—	○	—	○	
	乳腺外科	②④	電話予約(患者) FAX予約(医療機関)	月・水・金(10:30)	○	—	○	—	○	
	呼吸器外科	①	FAX予約(医療機関)のみ	月・水・金 (9:30/10:30/11:00 /11:30/12:00)	○	—	○	—	○	
	麻酔・疼痛・緩和医療科	②	電話予約(患者)	—	○	○	○	○	○	ペインクリニック外来:月・水・金 緩和ケア相談外来:月~金
	泌尿器科	②	電話予約(患者)	—	○	○	○	—	○	紹介状を前医でうけとり、当院へ の電話で初診日を確認ください
	整形外科	③	不要	—						紹介状の宛名に専門外来名を必ず 記載してください。休診となる 可能性があるので電話連絡をして から来院をお願いします。
	整形外科 腰椎外来・痛みセンター	①	FAX予約(医療機関)のみ	平日 9:00~16:00	—	—	—	—	—	紹介状の宛名に専門外来名を必ず 記載してください。
	眼科	①	FAX予約(医療機関)のみ	月~金 (8:30/9:00/9:30)	○	○	○	○	○	眼科医からの紹介状が必要です。
	皮膚科	①	FAX予約(医療機関)のみ	月・水・金 (9:00/9:30/10:00/10:30/11:00)	○	—	○	—	○	紹介状を持参のうえ受診をお願いします。
	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	①	FAX予約(医療機関)のみ	月~金 (9:00/9:30/10:00/10:30)	○	○	○	○	○	補聴器外来:予約制(第2・4火曜日) 舌下免疫療法:予約制(月・水・金)予約制
	歯科・顎・口腔外科	②	電話予約(患者)	—	○	○	—	○	○	
	形成・美容外科	②	電話予約(患者)	—	○	○	○	○	○	
感覚運動	整形外科 腰椎外来・痛みセンター	①	FAX予約(医療機関)のみ	平日 9:00~16:00	—	—	—	—	—	紹介状の宛名に専門外来名を必ず 記載してください。
	眼科	①	FAX予約(医療機関)のみ	月~金 (8:30/9:00/9:30)	○	○	○	○	○	眼科医からの紹介状が必要です。
	皮膚科	①	FAX予約(医療機関)のみ	月・水・金 (9:00/9:30/10:00/10:30/11:00)	○	—	○	—	○	紹介状を持参のうえ受診をお願いします。
	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	①	FAX予約(医療機関)のみ	月~金 (9:00/9:30/10:00/10:30)	○	○	○	○	○	補聴器外来:予約制(第2・4火曜日) 舌下免疫療法:予約制(月・水・金)予約制
脳神経精神	精神神経科	②	電話予約(患者)	—	○	○	○	○	○	中学生以上、他院の精神科・心療内 科からの紹介に限る。
	脳神経外科	②	電話予約(患者)	—	○	○	○	○	○	頭部画像必須(できればMRI S8)
	脳神経内科	②	電話予約(患者)	—	○	○	○	○	○	
	婦人科	②	電話予約(患者)	—	○	○	—	—	○	
小児母性女性	産科	①	FAX予約(医療機関)のみ	—	○	○	—	○	○	お急ぎ診療が必要な場合は医療機 関から直接ご連絡をお願いします。
	小児科	③	不要	—	○	○	○	○	○	対象は中学生まで
	小児外科	②	電話予約(患者)	—	○	○	—	○	○	満15歳以下
	放射線科	②	電話予約(患者)	—	○	○	○	○	○	
放射線	放射線科 MRリニアック	①	FAX予約(医療機関)のみ	当院で指定した日時	○	○	○	○	○	FAX予約時に紹介状が必須です。 判定の結果をお知らせします。
	総合診療科	②	電話予約(患者)	—	○	○	○	○	○	セカンドオピニオン制です。
	冠動脈疾患治療部	③	不要	—	○	○	○	○	○	
	こどものこころ 診療部	②	電話予約(患者)	—	—	○	—	—	—	小学生以下。 予約は2ヶ月1クール単位。
中央診療	遺伝子診療部	②	電話予約(患者)	—	○	○	○	○	○	



公共交通機関でお越しの場合	
JR千葉駅から	バス 約10分毎、所要時間約15分 東口正面7番のバス乗り場から「千葉大学病院」または、「千葉大学病院経由南矢作」行きバスに乗り、「千葉大学病院」で下車。
JR蘇我駅から	バス 約20~30分毎、所要時間約15分 東口2番のバス乗り場から「大学病院」行きバスに乗り、終点「大学病院」で下車。
京成電鉄千葉中央駅から	タクシー 所要時間約10分

自家用車などでお越しの場合

京葉道路・松ヶ丘インターから所要時間約10分

外来駐車場は大変混み合います。
ご来院は公共交通機関のご利用をよろしくお願いいたします。

各棟への連絡通路（1階以外は連絡していません）

